

IBM Unica Distributed Marketing

バージョン 8 リリース 6

2012 年 5 月 25 日

インストール・ガイド

IBM

注

本書および本書で紹介する製品をご使用になる前に、61ページの『特記事項』に記載されている情報をお読みください。

本書は、IBM Unica Distributed Marketing バージョン 8 リリース 6 モディフィケーション 0 および、新しい版で明記されていない限り、以降のすべてのリリースおよびモディフィケーションに適用されます。

お客様の環境によっては、資料中の円記号がバックスラッシュと表示されたり、バックスラッシュが円記号と表示されたりする場合があります。

原典： IBM Unica Distributed Marketing
Version 8 Release 6
May 25, 2012
Installation Guide

発行： 日本アイ・ビー・エム株式会社

担当： トランスレーション・サービス・センター

第1刷 2012.6

© Copyright IBM Corporation 2001, 2012.

目次

第 1 章 インストールの準備 1

Distributed Marketing の基本インストール・チェック リスト	1
前提条件	3
システム要件	3
知識に関する要件	3
クライアント・マシン	3
アクセス権限	4
Marketing Platform に関する要件	4
Unica Campaign に関する要件	4
アップグレードする場合	5
IBM Unica コンポーネントとそれらをインストールす る場所	5

第 2 章 IBM Unica Distributed Marketing データ・ソースの準備について. 7

Distributed Marketing システム・テーブル・データベ ースまたはスキーマの作成	7
ステップ: JDBC ドライバーのための Web アプリケ ーション・サーバーの構成	7
ステップ: Web アプリケーション・サーバーでの JDBC 接続の作成	9
JDBC 接続に関する情報	9
Unica Distributed Marketing データ・ソース情報チェ ックリスト	11

第 3 章 ステップ: IBM インストーラー の入手 13

インストール・ファイルのコピー (DVD のみ)	13
IBM Unica Marketing インストーラーの機能の仕方 インストーラー・ファイルに関する単一ディレク トリーの要件	14
インストールのタイプ	14
インストール・モード	15
不在モードの使用による複数回のインストール Distributed Marketing コンポーネントのインスト ール先	17
すべての IBM Unica Marketing 製品のインストール に必要な情報	17
ステップ: IBM Unica インストーラーの実行	18
IBM サイト ID	19
データベース環境変数	19
ステップ: Campaign 始動スクリプトにおけるデー タ・ソース変数の設定 (UNIX のみ)	20
データベース環境変数とライブラリー環境変数 (UNIX)	21
ステップ: Campaign サーバーの始動	23
IBM Unica Campaign データベース情報チェック リスト	24
ステップ: インストール・ログでのエラーの確認	25

インストーラーの実行後に行う EAR ファイルの作 成	25
ステップ: 手動での Distributed Marketing の登録 (必 要な場合)	26

第 4 章 配置前の構成 27

ステップ: Distributed Marketing システム・テーブ ルの作成とデータ設定	27
ステップ: 顧客データベースでのリスト・テーブルの 作成	27
リスト・テーブルの作成方法	28
ステップ: Distributed Marketing のための Campaign システム・テーブルの作成	28

第 5 章 ステップ: Distributed Marketing Web アプリケーションの配置 31

WebSphere 用のガイドライン	31
汎用 JVM 引数の指定	32
WebLogic 用のガイドライン	32

第 6 章 配置後の構成 35

ステップ: システム・ユーザーのセットアップ	35
ステップ: 基本インストールに必要なパラメーターの 設定	35
ステップ: リスト表示の構成	37
オプションのステップ: リスト表示用のデータ・ フィルターのセットアップ	38
ステップ: 「リストの表示」ページおよび「リスト の検索」ページの構成	38
リスト・マネージャーのリスト・テーブルの無効 化について	39
リスト表示の構成ファイル	39
ステップ: Campaign での Distributed Marketing テー ブルのマッピング	47
ステップ: Distributed Marketing のための Campaign システム・テーブルのマッピング	47
ステップ: CollaborateIntegrationServicesURL パラメー ターの変更	47
ステップ: Distributed Marketing インストール済み環 境の検証	48

第 7 章 Distributed Marketing のアップ グレードについて 49

アップグレードの順序	49
Distributed Marketing アップグレード・シナリオ	49
Distributed Marketing 8.5 からのアップグレード	49
Distributed Marketing のバックアップ	49
Distributed Marketing の配置解除	49
Web アプリケーション・サーバーのシャットダウ ンと再始動	50

アップグレード・モードでの Distributed Marketing のインストール	50
ステップ: Distributed Marketing システム・テーブルの作成とデータ設定	50
ステップ: 手動での Distributed Marketing の登録 (必要な場合)	51
アップグレード後の手順	52

付録. configTool ユーティリティー	53
IBM Unica 技術サポートへの連絡	59
特記事項	61
商標	63

第 1 章 インストールの準備

IBM® Unica 製品のインストールは複数のステップからなるプロセスであり、このプロセスには IBM Unica で提供していないさまざまなソフトウェア要素とハードウェア要素の処理が含まれています。IBM Unica の資料は、IBM Unica 製品のインストールに必要な特定の構成および手順に関する手引きとなりますが、IBM Unica で提供していないシステムの扱いに関する詳細については、それらの製品の資料を参照してください。

IBM Unica Marketing ソフトウェアのインストールを開始する前に、ビジネス目標とそれらの目標のサポートに必要なハードウェア環境とソフトウェア環境の両方を含む、インストールのプランを立ててください。

Distributed Marketing の基本インストール・チェックリスト

この章を読んで、インストール・プロセスの概要を把握し、ご使用の環境、予定しているインストールの順序、および知識のレベルが前提条件を満たしていることを確認してください。

以下のリストは、Optimize の基本インストールを実行するのに必要なステップの大きな概要です。これらのステップについては、本ガイドの残りの部分でさらに詳しく説明します。

データ・ソースの準備

1. 7 ページの『Distributed Marketing システム・テーブル・データベースまたはスキーマの作成』

データベース管理者と連携して、Distributed Marketing システム・テーブルのデータベースまたはスキーマを作成します。

2. 27 ページの『ステップ: 顧客データベースでのリスト・テーブルの作成』

リストを使用可能にするには、顧客データベースに 6 つのテーブルを作成する必要があります。

3. 7 ページの『ステップ: JDBC ドライバーのための Web アプリケーション・サーバーの構成』

Distributed Marketing が使用するデータベース・タイプごとに、データベース・ドライバーを Web アプリケーション・サーバー・クラスパスに追加します。

4. 9 ページの『ステップ: Web アプリケーション・サーバーでの JDBC 接続の作成』

Distributed Marketing および Campaign のシステム・テーブル・データベースと、リスト・テーブルを保持するデータベース (通常は顧客データベース) に対する JDBC 接続を作成します。Marketing Platform システム・テーブルに対する接続の JNDI 名として、必ず UnicaPlatformDS を使用してください。

Distributed Marketing のインストール

1. 13 ページの『第 3 章 ステップ: IBM インストーラーの入手』

IBM インストーラーおよび Distributed Marketing インストーラーをダウンロードします。

2. 17 ページの『すべての IBM Unica Marketing 製品のインストールに必要な情報』

必要なデータベースおよび Web アプリケーション・サーバーの情報を収集します。

3. 18 ページの『ステップ: IBM Unica インストーラーの実行』

Marketing Platform と Campaign をインストール、配置、および検証した後、Distributed Marketing をインストールします。

4. 26 ページの『ステップ: 手動での Distributed Marketing の登録 (必要な場合)』

Distributed Marketing インストーラーで登録を実行できなかった場合は、Marketing Platform ユーティリティを使用して手動で登録を行います。

Distributed Marketing の配置

1. 31 ページの『第 5 章 ステップ: Distributed Marketing Web アプリケーションの配置』

配置のためのガイドラインに従ってください。

Distributed Marketing の構成

1. 35 ページの『ステップ: システム・ユーザーのセットアップ』

IBM Unica Marketing の「設定」>「ユーザー」領域で、Campaign および Distributed Marketing における管理者としての権限を持つシステム・ユーザーをセットアップします。

2. 35 ページの『ステップ: 基本インストールに必要なパラメーターの設定』

collaborate_config.xml ファイルを編集して、必須パラメーターを設定します。

3. 37 ページの『ステップ: リスト表示の構成』

データベース・テーブルをセットアップし、リスト XML ファイルを編集してリスト表示をセットアップします。

4. 47 ページの『ステップ: Campaign での Distributed Marketing テーブルのマッピング』

Campaign で、Distributed Marketing テーブルをマップします。

5. 48 ページの『ステップ: Distributed Marketing インストール済み環境の検証』

IBM Unica Marketing Platform にログインし、「地域マーケティング」メニューにアクセス可能であることを確認します。

前提条件

IBM Unica Marketing 製品のインストールの前提条件を以下に示します。

システム要件

詳細なシステム要件については、「*IBM Unica Marketing Enterprise* 製品の推奨されるソフトウェア環境と最小システム要件」ガイドを参照してください。

JVM 要件

スイート内の各 IBM Unica Marketing アプリケーションは、専用の Java Virtual Machine (JVM) に配置する必要があります。IBM Unica Marketing 製品により、Web アプリケーション・サーバーで使用される JVM がカスタマイズされます。JVM 関連のエラーが発生した場合に、IBM Unica Marketing 製品に専用の Oracle WebLogic ドメインまたは WebSphere® ドメインを作成しなければならないことがあります。

ネットワーク・ドメイン要件

1 つのスイートとしてインストールされる複数の IBM Unica Marketing 製品は、同じネットワーク・ドメイン上にインストールする必要があります。こうして、クロスサイト・スクリプティングのセキュリティー・リスクを抑えることを意図したブラウザ制限に従うようにします。

知識に関する要件

IBM Unica Marketing 製品をインストールする担当者は、それらの製品をインストールする環境に関する十分な知識を持っているか、またはそうした知識のある人員とともに作業する必要があります。これらの知識には、オペレーティング・システム、データベース、および Web アプリケーション・サーバーに関する知識が含まれます。

クライアント・マシン

クライアント・マシンは、以下の構成要件を満たしている必要があります。

- Campaign は、フローチャートおよび管理機能のために ActiveX コントロールを使用します。このフローチャートは、必要なときに自動的にダウンロードされます。Internet Explorer ブラウザーのセキュリティー設定は、ローカル・イントラネットでは中低を推奨します。具体的には、クライアント・ブラウザで以下のオプションを有効にする必要があります。
 - 署名済み ActiveX コントロールのダウンロード
 - ActiveX コントロールとプラグインの実行
 - スクリプトを実行しても安全だとマークされている ActiveX コントロールのスクリプトの実行
- ブラウザーでページをキャッシュさせないようにします。Internet Explorer で、「ツール」>「インターネット オプション」>「全般」>「閲覧の履歴」>「設定」と選択し、表示するたびにページの新しいバージョンがあるかどうかをブラウザが確認するオプションを選択します。

- 広告ウィンドウのポップアップをブロックするためのソフトウェアがクライアント・マシンにインストールされている場合は、Campaign が適切に機能しないおそれがあります。最良の結果を得るため、Campaign の実行中は、広告のポップアップ・ウィンドウをブロックするソフトウェアを無効にしてください。

アクセス権限

本ガイドに示す手順を実行できるネットワーク権限があることと、適切な権限が付与されたログインであることを確認してください。

適切な権限には、以下のものが含まれます。

- Web アプリケーション・サーバーの管理パスワード。
- 必要なすべてのデータベースに対する、管理アクセス権限。
- 編集する必要があるすべてのファイルに対する、書き込み権限。
- インストール・ディレクトリーや、アップグレードする場合のバックアップ・ディレクトリーなど、ファイルを保存する必要があるすべてのディレクトリーに対する、書き込み権限。
- インストーラーを実行するための、適切な読み取り/書き込み/実行権限。
- Web アプリケーション・サーバーおよび IBM Unica Marketing コンポーネントの実行に使用するオペレーティング・システム・アカウントには、関係するディレクトリーとサブディレクトリーに対する読み取り権限および書き込み権限が付与されていなければなりません。
- UNIX では、Campaign および Marketing Platform をインストールするユーザー・アカウントは、Campaign ユーザーと同じグループのメンバーでなければなりません。このユーザー・アカウントには、有効なホーム・ディレクトリーが必要であり、そのディレクトリーに対する書き込み権限が付与されていなければなりません。
- UNIX では、IBM Unica 製品のインストーラー・ファイルのすべてに、完全な実行権限 (rwxr-xr-x など) が付与されていなければなりません。

Marketing Platform に関する要件

IBM Unica Marketing 製品をインストールする前に、Marketing Platform を完全にインストールして配置する必要があります。

以下の理由で Marketing Platform の実行が必要です。

- インストールする各製品が、構成プロパティーと、セキュリティーの役割を登録できるようにする。
- Marketing Platform の構成ページで構成プロパティーの値を設定できるようにする。

一緒に機能させる予定の製品からなるグループごとに、1 回だけ Marketing Platform をインストールする必要があります。

Unica Campaign に関する要件

Distributed Marketing をインストールするには、その前に Campaign をインストールする必要があります。

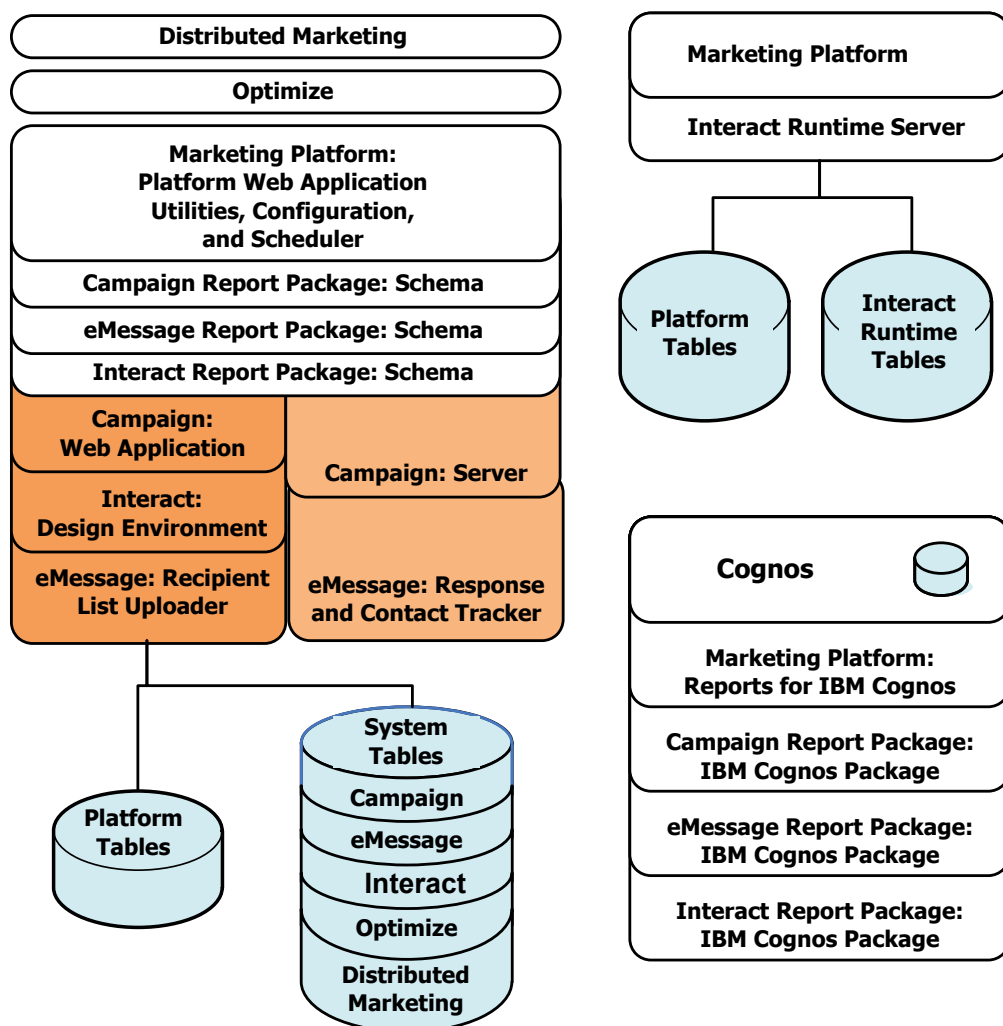
アップグレードする場合

アップグレードする場合は、アップグレードに関するセクションを参照してください。

IBM Unica コンポーネントとそれらをインストールする場所

以下の図に、各 IBM Unica アプリケーションをインストールする場所の概要を示します。

これは、機能する基本インストールのセットアップを示すものです。セキュリティ要件およびパフォーマンス要件を満たすために、さらに複雑で分散されたインストールが必要になることもあります。



第 2 章 IBM Unica Distributed Marketing データ・ソースの準備について

Distributed Marketing に必要なデータ・ソースと JDBC 接続をセットアップする必要があります。インストール・プロセスの後の方で IBM インストーラーを実行する際に、システム・テーブル・データベースに関する詳細を入力するため、11 ページの『Unica Distributed Marketing データ・ソース情報チェックリスト』を印刷してそこに記入しておく必要があります。

Distributed Marketing システム・テーブル・データベースまたはスキーマの作成

1. データベース管理者と連絡して、IBM Unica Distributed Marketing に必要なデータベースまたはスキーマを作成します。

Distributed Marketing システム・データベースでは、UTF-8 文字エンコードを使用する必要があります。UTF-8 を使用しない場合、特定の文字を Microsoft Word 文書から Distributed Marketing にコピーする際に問題が発生する可能性があります。Oracle データベースでは、特定の文字を Word から Distributed Marketing のフィールドにコピーする際に、それらが ? と表示されます。DB2® の場合、この問題により、オブジェクトを表示する際に問題が生じます。この問題を修正するには、データベース内を調べて、問題となる文字を削除してください。

2. データベースまたはスキーマのアカウントをデータベース管理者に作成してもらいます。このアカウントは、インストール・プロセスの後の方で、システム・ユーザーのデータ・ソースとして指定するものです。

このアカウントには、少なくとも

CREATE、SELECT、INSERT、UPDATE、DELETE、および DROP の権限が付与されていなければなりません。

3. データベースまたはスキーマに関する情報と、データベース・アカウントに関する情報を入手してから、11 ページの『Unica Distributed Marketing データ・ソース情報チェックリスト』を印刷してそこに記入します。

ステップ: JDBC ドライバーのための Web アプリケーション・サーバーの構成

以下の手順に従って、Distributed Marketing インストール環境に適切な JDBC ドライバーを入手し、それを使用するために Web アプリケーション・サーバーを構成します。

Distributed Marketing がさまざまなベンダーのデータベースに接続する必要がある場合は、この手順をデータベース・タイプごとに実行します。

- IBM がサポートしている、ベンダー提供の最新のタイプ 4 JDBC ドライバーを入手します。詳しくは、このセクションにある参照表をご覧ください。
 - Distributed Marketing がインストールされるマシンにドライバーが存在しない場合は、ドライバーを入手し、Distributed Marketing Web アプリケーションを配置する予定のマシン上にコピーします。Distributed Marketing を配置する予定のマシン上の任意の場所にコピーすることができます。IBM は、スペースを含まないパスにドライバーを解凍することをお勧めします。
 - データ・ソース・クライアントがインストールされているマシンからドライバーを入手する場合は、IBM がサポートしている最新のバージョンであることを確認してください。

以下の表に、IBM Marketing システム・テーブル用にサポートされる各データベース・タイプについて、ドライバー・ファイル名をリストします。

データベース・タイプ	ファイル
Oracle 11	ojdbc5.jar
Oracle 11g	ojdbc5.jar
DB2 9.7	db2jcc.jar db2jcc_license_cu.jar
SQL Server	JDBC2 を指定した sqljdbc.jar

- 以下のように、ドライバーへの絶対パスを、IBM Unica Marketing 製品を配置する予定の Web アプリケーション・サーバーのクラスパスに含めます。
 - サポートされているすべてのバージョンの WebLogic では、環境変数が構成される場所である、`WebLogic_domain_directory/bin` ディレクトリー内の `setDomainEnv` スクリプトにクラスパスを設定します。ドライバー・エントリーは、`CLASSPATH` の値のリスト内で、1 番目のエントリー (既存のすべての値より前) にする必要があります。こうして、Web アプリケーション・サーバーが確実に適切なドライバーを使用するようにします。以下に例を示します。

UNIX

```
CLASSPATH="/home/oracle/product/10.2.0/jdbc/lib/ojdbc14.jar:
${PRE_CLASSPATH}${CLASSPATHSEP}${WEBLOGIC_CLASSPATH}
${CLASSPATHSEP}${POST_CLASSPATH}${CLASSPATHSEP}${WLP_POST_CLASSPATH}"
export CLASSPATH
```

Windows

```
set CLASSPATH=c:\oracle\jdbc\lib\ojdbc14.jar;%PRE_CLASSPATH%;
%WEBLOGIC_CLASSPATH%;%POST_CLASSPATH%;%WLP_POST_CLASSPATH%
```

- サポートされているすべてのバージョンの WebSphere では、IBM Unica Marketing 製品のために JDBC プロバイダーをセットアップする際に、管理コンソールでクラスパスを設定します。
- Web アプリケーション・サーバーを再始動して、変更内容が有効になるようにします。

始動時に、コンソール・ログをモニターして、データベース・ドライバーへのパスがクラスパスに含まれていることを確認してください。

ステップ: Web アプリケーション・サーバーでの JDBC 接続の作成

Distributed Marketing Web アプリケーションは、JDBC 接続を使用してデータ・ソースと通信できなければなりません。Distributed Marketing が配置される Web アプリケーション・サーバーで、以下の JDBC 接続を作成する必要があります。

- Distributed Marketing システム・テーブルを保持するデータベース
- Marketing Platform システム・テーブルを保持するデータベース
- リスト・テーブルを保持する顧客データベース

このセクションでは、WebSphere および WebLogic で接続を作成するためのガイドラインを示します。

JNDI 名

- Marketing Platform システム・テーブルを保持するデータベースに対する JDBC 接続の JNDI 名として、UnicaPlatformDS を使用する必要があります。これは必須の名前です。
- Distributed Marketing システム・テーブルを保持するデータベースに対する JDBC 接続の JNDI 名として、collaborateds を使用する必要があります。これは、この名前を参照する構成プロパティのデフォルト値です。デフォルト値を使用しない場合は、後の構成プロセスで値を設定する必要があります。
- 顧客データベースに対する接続には、任意の名前を使用します。

JNDI 名を 11 ページの『Unica Distributed Marketing データ・ソース情報チェックリスト』に記録してください。

JDBC 接続に関する情報

JDBC 接続を作成する際、このセクションを活用して、入力する必要がある値のいくつかを特定してください。データベース用にデフォルトのポート設定を使用していない場合は、適切な値に設定を変更してください。

以下の情報は、Web アプリケーション・サーバーで必要な情報のすべてを厳密に示したものではありません。このセクションに指示が明記されていない項目については、デフォルト値を受け入れることができます。より包括的なヘルプが必要な場合は、アプリケーション・サーバーの資料を参照してください。

WebLogic

アプリケーション・サーバーが WebLogic の場合は、以下の値を使用します。

SQLServer

- ドライバー: Microsoft MS SQL Server Driver (Type 4) バージョン: 2008、2008R2
- デフォルト・ポート: 1433
- ドライバー・クラス: com.microsoft.sqlserver.jdbc.SQLServerDriver
- ドライバー URL: jdbc:sqlserver://
<your_db_host>:<your_db_port>;databaseName=<your_db_name>

- プロパティ: Add user=<your_db_user_name>

Oracle 11 および 11g

- ドライバー: その他
- デフォルト・ポート: 1521
- ドライバー・クラス: oracle.jdbc.OracleDriver
- ドライバー URL:
jdbc:oracle:thin:@<your_db_host>:<your_db_port>:<your_db_service_name>
- プロパティ: Add user=<your_db_user_name>

DB2

- ドライバー: その他
- デフォルト・ポート: 50000
- ドライバー・クラス: com.ibm.db2.jcc.DB2Driver
- ドライバー URL: jdbc:db2://<your_db_host>:<your_db_port>/<your_db_name>
- プロパティ: Add user=<your_db_user_name>

WebSphere

アプリケーション・サーバーが WebSphere の場合は、以下の値を使用します。

SQLServer

- ドライバー: 適用外
- デフォルト・ポート: 1433
- ドライバー・クラス:
com.microsoft.sqlserver.jdbc.SQLServerConnectionPoolDataSource
- ドライバー URL: 適用外

「データベース・タイプ」フィールドで、「ユーザー定義」を選択します。

JDBC プロバイダーとデータ・ソースを作成した後、データ・ソースのカスタム・プロパティに移動し、以下のようにプロパティを追加および変更します。

- serverName=<your_SQL_server_name>
- portNumber =<SQL_Server_Port_Number>
- databaseName=<your_database_name>
- enable2Phase = false

Oracle 11 および 11g

- ドライバー: Oracle JDBC ドライバー
- デフォルト・ポート: 1521
- ドライバー・クラス: oracle.jdbc.OracleDriver
- ドライバー URL:
jdbc:oracle:thin:@<your_db_host>:<your_db_port>:<your_db_service_name>

DB2

- ドライバー: DB2 Universal JDBC ドライバー・プロバイダー

- デフォルト・ポート: 50000
- ドライバー・クラス: com.ibm.db2.jcc.DB2Driver
- ドライバー URL: jdbc:db2://<your_db_host>:<your_db_port>/<your_db_name>

Unica Distributed Marketing データ・ソース情報チェックリスト

Distributed Marketing システム・テーブル・データベースに関する情報を記録してください。

フィールド	メモ
データ・ソース・タイプ	
データ・ソース名	
データ・ソース・アカウントのユーザー名	
データ・ソース・アカウントのパスワード	
JNDI 名 collaborateds	

第 3 章 ステップ: IBM インストーラーの入手

DVD を入手するか、または IBM からソフトウェアをダウンロードします。

重要: すべてのファイルを同じディレクトリーに置いてください。これはインストール要件です。

- IBM インストーラー。
- Distributed Marketing インストーラー。

IBM Unica Marketing インストール・ファイルは、共に使用することが意図された製品のバージョンとオペレーティング・システムに応じて名前が付けられています。ただし、コンソール・モードで実行するための UNIX ファイルについては、オペレーティング・システム固有のものではありません。UNIX の場合、インストール・モードが X Window システムか、またはコンソールかに応じて異なるファイルを使用します。以下に例を示します。

Windows - GUI およびコンソール・モード - *ProductN.N.N.N_win32.exe* は、バージョン N.N.N.N で、Windows 32 ビット・オペレーティング・システムでのインストール用です。

UNIX - X Window システム・モード - *ProductN.N.N.N_solaris64.bin* は、バージョン N.N.N.N で、Solaris 64 ビット・オペレーティング・システムでのインストール用です。

UNIX - コンソール・モード - *ProductN.N.N.N.sh* は、バージョン N.N.N.N で、すべての UNIX オペレーティング・システムでのインストール用です。

インストール・ファイルのコピー (DVD のみ)

DVD で IBM Unica インストール・ファイルを受け取った場合、またはダウンロードした ISO イメージ・ファイルから DVD を作成した場合は、まずその内容を、IBM Unica 製品がインストールされるシステムで使用できる書き込み可能なディレクトリーにコピーしてから、インストーラーを実行してください。

インストール DVD などの読み取り専用メディアや、ISO イメージがマウントされた読み取り専用、あるいは書き込み制限付きディレクトリーまたはボリュームから、IBM Unica Marketing インストーラーを直接実行することはできません。

注: インストール・ファイルを置く場所については、『IBM Unica Marketing インストーラーの機能の仕方』を参照してください。

IBM Unica Marketing インストーラーの機能の仕方

IBM Unica インストーラーの基本的な機能に精通していない場合は、このセクションをお読みください。

インストーラー・ファイルに関する単一ディレクトリーの要件

IBM Unica Enterprise 製品をインストールする際は、複数のインストーラーを組み合わせて使用します。

- マスター・インストーラー。ファイル名に `Unica_Installer` が含まれます。
- 製品固有の各インストーラー。これらのインストーラーはすべて、ファイル名の一部に製品名が含まれます。

IBM Unica Marketing 製品をインストールするには、マスター・インストーラーと各製品インストーラーを同じディレクトリーに置く必要があります。マスター・インストーラーは、実行されると、ディレクトリー内の製品インストール・ファイルを検出します。続いて、インストールする製品を選択することができます。

複数のバージョンの製品インストーラーがマスター・インストーラーとともにディレクトリーに存在する場合、マスター・インストーラーは必ず、最新バージョンの製品をインストール・ウィザードの IBM Unica 製品画面に表示します。

パッチのインストール

IBM Unica 製品の新規インストールを実行した直後にパッチをインストールすることを予定している場合があります。その場合、パッチ・インストーラーを、基本バージョンおよびマスター・インストーラーとともにディレクトリーに置いてください。インストーラーの実行時に、基本バージョンとパッチの両方を選択することができます。すると、インストーラーは正しい順序で両方ともインストールします。

インストールのタイプ

IBM Unica インストーラーは、以下のタイプのインストールを実行します。

- **新規インストール:** インストーラーを実行し、IBM Unica Marketing 製品がインストールされることがないディレクトリーを選択すると、インストーラーは自動的に新規インストールを実行します。
- **アップグレード・インストール:** インストーラーを実行し、以前のバージョンの IBM Unica Marketing 製品がインストールされているディレクトリーを選択すると、インストーラーは自動的にアップグレード・インストールを実行します。インストーラーが自動的にデータベースをアップデートする製品の場合、アップグレード・インストールにより新規のテーブルが追加されますが、既存のテーブルのデータは上書きされません。

インストーラーが自動的にデータベースをアップデートする製品の場合、既存のテーブルがある場合はインストーラーがテーブルを作成しないため、アップグレード時にエラーが発生することがあります。このエラーは、無視しても問題ありません。詳しくは、アップグレードに関する章を参照してください。

- **再インストール:** インストーラーを実行し、同じバージョンの IBM Unica Marketing 製品がインストールされているディレクトリーを選択すると、インストーラーは自動的に新規インストールを実行します。インストーラーが自動的にデータベースをアップデートする製品の場合、再インストールにより既存のテーブルおよびデータがすべて除去され、新規のテーブルが作成され、そのテーブルにデフォルトのデータが入ります。さらに再インストールにより、既存のインスト

ール・ディレクトリー (インストーラーが自動的にデータベースをアップデートする製品用) にある全データも上書きされます。再インストールのためにデータを保持または復元するには

- インストーラーの実行時に、「**手動データベース・セットアップ**」 オプションを選択してください。
- 再インストールを行う前に、Marketing Platform configTool ユーティリティーを使用して、カスタマイズ済みナビゲーション・メニュー項目など、変更された構成設定をエクスポートしてください。

通常は、再インストールは推奨されていません。

インストール・モード

IBM Unica インストーラーは、以下のモードで実行できます。

- コンソール (コマンド・ライン) モード

コンソール・モードでは、オプションは番号付きリストで表示されます。番号を指定してオプションを選択します。番号を入力せずに Enter (キー) を押すと、インストーラーはデフォルト・オプションを使用します。

デフォルト・オプションは以下の記号のいずれかで示されます。

- -->

この記号が表示されたときにオプションを選択するには、選択するオプションの番号を入力して Enter (キー) を押してください。

- [X]

この記号は、リストの中から 1 つ、複数、またはすべてのオプションを選択できることを示します。横にこの [X] 記号が表示されているオプション番号を入力して Enter (キー) を押すと、そのオプションはクリアまたは選択解除されます。現在現在選択されていないオプションの番号 (横に [] が表示されている) を入力した場合、Enter (キー) を押すとそのオプションが選択されます。

複数のオプションを選択解除したり選択したりする場合、オプション番号のコマ区切りリストを入力してください。

- Windows GUI モードまたは UNIX X-windows モード
- 不在モード、またはサイレント・モード。ユーザーとの対話はありません。

不在モードは、クラスター環境のセットアップ時など IBM Unica 製品を何度もインストールする場合に使用することができます。詳しくは、『不在モードの使用による複数回のインストール』を参照してください。

不在モードの使用による複数回のインストール

クラスター環境のセットアップ時など、IBM Unica Marketing 製品を何度もインストールする必要がある場合は、ユーザー入力が不要な不在モードで IBM Unica インストーラーを実行することができます。

応答ファイルについて

不在モード (サイレント・モードとも呼ばれる) では、コンソール・モードまたは GUI モードの使用時にインストール・プロンプトでユーザーが入力するような情報を提供するための 1 つのファイル、または一連のファイルが必要になります。これらのファイルは応答ファイルと呼ばれます。

以下のオプションのいずれかを採用して、応答ファイルを作成することができます。

- サンプル応答ファイルをテンプレートとして使用して、応答を直接作成することができます。サンプル・ファイルは圧縮アーカイブ `ResponseFiles` の製品インストーラーにあります。応答ファイルは、次のように名前が付けられます。
 - IBM Unica インストーラー - `installer.properties`
 - 製品インストーラー - `installer_` の後に製品名のイニシャルが続きます。たとえば、Campaign インストーラーには `installer_uc.properties` という応答ファイルがあります。
 - 製品レポート・パック・インストーラー - `installer_` の後に製品名のイニシャルと `rp` が続きます。たとえば、Campaign レポート・パック・インストーラーには `installer_urpc.properties` という応答ファイルがあります。

必要に応じてサンプル・ファイルを編集し、インストーラーと同じディレクトリーに置いてください。

- 不在モードでの実行をセットアップする前に、Windows GUI モードまたは UNIX X Window システム・モードで、あるいはコンソール・モードでインストーラーを実行し、応答ファイルの作成を選択することができます。

IBM Unica マスター・インストーラーは 1 つのファイルを作成し、インストールする各 IBM Unica 製品も 1 つまたは複数のファイルを作成します。

応答ファイルには `.properties` 拡張子が付きます。たとえば、`installer_product.properties` および IBM Unica インストーラー自体のためのファイル `installer.properties` などです。インストーラーは、指定されたディレクトリーにこれらのファイルを作成します。

重要: セキュリティー上の理由により、インストーラーはデータベース・パスワードを応答ファイルに記録しません。不在モードで応答ファイルを作成する際は、データベース・パスワードを入力するために各々の応答ファイルを編集する必要があります。各々の応答ファイルを開き、これらの編集を行う部分を見つけるために `PASSWORD` を探してください。

インストーラーが応答ファイルを探す場所

インストーラーは、不在モードで実行されると、以下のように応答ファイルを探します。

- 最初に、インストーラーはインストール・ディレクトリー内を探します。
- 次に、インストーラーは、インストールを実行しているユーザーのホーム・ディレクトリー内を探します。

すべての応答ファイルは、同じディレクトリーに存在していなければなりません。応答ファイルの読み取りが行われる場所のパスは、コマンド・ラインに引数を追加することで変更できます。以下に例を示します。

```
-DUNICA_REPLAY_READ_DIR="myDirPath" -f myDirPath/installer.properties
```

アンインストール時の不在モードの影響

不在モードを使用してインストールされた製品をアンインストールする際は、不在モードで (ユーザーとの対話用のダイアログは表示されない) アンインストールが実行されます。

不在モードとアップグレード

アップグレードの際、以前に応答ファイルを作成しており、不在モードで実行する場合は、インストーラーは以前に設定されたインストール・ディレクトリーを使用します。応答ファイルがないときに不在モードを使用してアップグレードする場合は、初回のインストール時にインストーラーを手動で実行して応答ファイルを作成し、インストール・ウィザードで現行のインストール・ディレクトリーを必ず選択してください。

Distributed Marketing コンポーネントのインストール先

最高のパフォーマンスを得るため、Distributed Marketing を、他の IBM Unica Marketing 製品がインストールされていない専用のマシンにインストールすることを IBM ではお勧めします。

以下の表は、Distributed Marketing のインストール時に選択可能なコンポーネントを示しています。

コンポーネント	説明
Distributed Marketing Server	Distributed Marketing Server は、リスト、オンデマンド・キャンペーン、および企業キャンペーンを実行します。最高のパフォーマンスを得るため、このサーバーを専用システムにインストールすることを IBM ではお勧めします。
Distributed Marketing Developer Toolkits	Distributed Marketing Developer Toolkits は、Distributed Marketing API を提供します。

すべての IBM Unica Marketing 製品のインストールに必要な情報

このセクションに示された必要な情報を収集してください。

Marketing Platform の情報

各々の IBM Unica Marketing 製品のインストール・ウィザードでは、製品を登録するために Marketing Platform システム・テーブル・データベースと通信できなければなりません。

インストーラーを実行するたびに、Marketing Platform システム・テーブル・データベースに関する以下のデータベース接続情報を入力する必要があります。

- データベース・タイプ。
- データベース・ホスト名。
- データベース・ポート。
- データベース名またはスキーマ ID。
- データベース・アカウントのユーザー名とパスワード。

これらの情報は、データベースまたはスキーマを作成した際に取得したものです。

Web コンポーネントの情報

Web アプリケーション・サーバーに配置される Web コンポーネントを含む IBM Unica Marketing 製品のすべてについて、以下の情報を取得する必要があります。

- Web アプリケーション・サーバーがインストールされているシステムの名前。セットアップする IBM Unica Marketing 環境に応じて、1 つ、または複数あります。
- アプリケーション・サーバーが listen するポート。SSL の実装を予定している場合は、SSL ポートを取得してください。
- 配置システムのネットワーク・ドメイン。例えば、mycompany.com などです。

ステップ: IBM Unica インストーラーの実行

IBM Unica インストーラーを実行する前に、以下の前提条件を満たしていることを確認してください。

- IBM Unica インストーラーと、インストールを予定している各製品のインストーラーをダウンロードしたこと。IBM Unica インストーラーと製品インストーラーは両方とも、同じディレクトリーに存在していなければなりません。
- 17 ページの『すべての IBM Unica Marketing 製品のインストールに必要な情報』に示すとおり収集した情報を利用できること。

他の IBM Unica 製品がインストールされているシステムでインストーラーを再実行する場合、これら他製品を再インストールしないでください。

インストーラーについての詳細が必要な場合、あるいはウィザードに情報を入力する際に助けが必要な場合は、このセクション内の他のトピックを参照してください。

以下に示すように IBM Unica インストーラーを実行し、ウィザードの指示に従ってください。

- GUI モードまたは X Window システム・モード

Unica_Installer ファイルを実行します。UNIX の場合は、.bin ファイルを使用します。

- コンソール・モード

コマンド・プロンプトを開き、IBM Unica ソフトウェアをダウンロードしたディレクトリーから、以下のように Unica_Installer 実行可能ファイルを実行します。

Windows の場合、`-i console` を付けて Unica_installer 実行可能ファイルを実行します。例: `Unica_Installer_N.N.N.N_OS -i console`

UNIX の場合、スイッチなしで Unica_installer.sh ファイルを実行します。

注: Solaris の場合、 Bash シェルからインストールを実行する必要があります。

- 不在モード

コマンド・プロンプトを開き、IBM ソフトウェアをダウンロードしたディレクトリーから、`-i silent` を付けて Unica_Installer 実行可能ファイルを実行します。UNIX の場合は、`.bin` ファイルを使用します。例えば、インストーラーと同じディレクトリーに置かれた応答ファイルを指定するには、次のようにします。

```
Unica_Installer_N.N.N.N_OS -i silent
```

他のディレクトリーにある応答ファイルを指定するには、`-f filepath/filename` を使用します。完全修飾パスを使用してください。以下に例を示します。

```
Unica_Installer_N.N.N.N_OS -i silent -f filepath/filename
```

不在モードについて詳しくは、15 ページの『不在モードの使用による複数回のインストール』を参照してください。

IBM サイト ID

インストーラーは、IBM サイト ID の入力を求めるプロンプトを出すことがあります。お客様の IBM サイト ID は、IBM ウェルカム・レター、技術サポート・ウェルカム・レター、ライセンス証書レター、またはソフトウェアの購入時に送られるその他の通知に記載されています。

IBM は、お客様の製品使用状況をさらに把握してカスタマー・サポートの改善を図るために、ソフトウェアによって提供されるデータを使用することがあります。収集されるデータには、個人を特定する情報は含まれていません。

こうした情報が収集されることを望まない場合には、Marketing Platform のインストール後に、管理権限を持つユーザーとして Marketing Platform にログオンします。「設定」>「構成」ページにナビゲートし、「プラットフォーム」カテゴリー下の「ページのタグ付けを無効にする」プロパティを「True」に設定します。

データベース環境変数

インストール時に、インストーラーは、使用するデータベースのタイプについてのプロンプトを出すことがあります。これは、使用するデータベースのインストールに固有の環境変数の一部を、Web アプリケーションの `setenv` ファイルにインストーラーが自動的に設定できるようにするためです。サポートされているデータベースの場合、インストーラーは自動的に値を構成できるため、インストールの完了後にそれらを手動で設定することが不要になります。

「データベース・タイプ」画面が表示されたら、使用するデータベースのタイプを選択します。

UNIX インストール済み環境の場合にのみ、以下に示されているように情報を入力します。インストーラー画面にリストされないデータベース・タイプについては、インストールの完了後に、『ステップ: Campaign 始動スクリプトにおけるデータ・ソース変数の設定 (UNIX のみ)』に説明されているように `setenv` ファイルを手動で構成することができます。

データベース環境変数

データベース	入力する値
IBM DB2	<ul style="list-style-type: none">DB2 インストール・ディレクトリー 例えば、<code>/usr/lpp/db2_06_01</code> または <code>C:%Program Files%IBM%SQLLIB</code> とします。これは、<code>DB2DIR</code> 環境変数として別の場所に設定することがある値です。DB2 インスタンス・パス 例えば、<code>/home/db2inst1</code> または <code>C:%db2inst1</code> とします。
Microsoft SQL Server	追加の設定は不要です。
Oracle	<ul style="list-style-type: none">Oracle インストール・ディレクトリー 例えば、<code>/opt/oracle</code> または <code>C:%oracle</code> とします。これは、<code>ORACLE_BASE</code> 環境変数として別の場所に設定することがある値です。Oracle のホーム・ディレクトリー 例えば、<code>/home/oracle/product/11.1.0/db_1</code> または <code>C:%oracle%ora11.1</code> とします。これは、<code>ORACLE_HOME</code> 環境変数として別の場所に設定することがある値です。

ステップ: Campaign 始動スクリプトにおけるデータ・ソース変数の設定 (UNIX のみ)

Campaign のインストール中に、IBM Unica インストーラーはデータベース情報を収集し、その情報を使用して、Campaign システム・テーブルの作成と使用に必要なデータベースおよび環境変数を自動的に構成します。それらの設定は、Campaign サーバー・インストール済み環境下の `bin` ディレクトリー内にある `setenv.sh` ファイルに格納されます。

システム・テーブルと同じタイプのデータベースを使用しないデータ・ソース (Campaign 顧客テーブルなど) に対するアクセスについては、21 ページの『データベース環境変数とライブラリー環境変数 (UNIX)』に示されているデータベース環境変数とライブラリー環境変数を追加するために `setenv.sh` ファイルを手動で構成する必要があります。

なお、Campaign サーバーが既に実行中のときにこのファイルを変更する場合は、同サーバーを再始動した後でないと `setenv` ファイルの変更が認識されない点に注意してください。詳しくは、23 ページの『ステップ: Campaign サーバーの始動』を参照してください。

`setenv` ファイルに追加する必要がある情報については、24 ページの『IBM Unica Campaign データベース情報チェックリスト』を参照してください。

データベース環境変数とライブラリー環境変数 (UNIX)

以下の表に示すように、データベース (顧客テーブルと、インストール時に「手動データベース・セットアップ」を選択した場合はシステム・テーブル) およびオペレーティング・システムに必要なデータベース環境変数とライブラリー環境変数を、`setenv.sh` ファイルに設定します。

データベース環境変数

データベース	構文と説明
DB2	<pre>DB2DIR=<i>full_dir_path</i> export DB2DIR</pre> <p>DB2 インストール・ディレクトリー (例: <code>/usr/lpp/db2_06_01</code>)。</p> <pre>. <i>full_path_to_db2profile</i></pre> <p>DB2 ユーザーにデータベース構成を提供 (例: <code>/home/db2inst1/sqllib/db2profile</code>)。</p> <p>“.” (ピリオドの後にスペース) に注意。</p>
Informix®	<pre>INFORMIXDIR=<i>full_dir_path</i> export INFORMIXDIR</pre> <p>Informix クライアント・インストール・ディレクトリー (例: <code>/export/home/informix/SDK2.90UC3</code>)</p> <pre>ODBCINI=<i>full_path_and_file_name</i> export ODBCINI</pre> <p><code>odbc.ini</code> ファイルへの絶対パス</p> <pre>INFORMIXSQLHOSTS=<i>full_path_and_file_name</i> sqlhosts ファイルへの絶対パス</pre>

データベース	構文と説明
Netezza®	<pre>NZ_ODBC_INI_PATH=<i>full_dir_path</i> export NZ_ODBC_INI_PATH odbc.ini ファイルのディレクトリーの場所 (例: /opt/odbc64v51) ODBCINI=<i>full_path_and_file_name</i> export ODBCINI odbc.ini ファイルへの絶対パス</pre>
Oracle	<pre>ORACLE_BASE=<i>full_dir_path</i> export ORACLE_BASE Oracle インストール・ディレクトリー ORACLE_HOME=<i>full_dir_path</i> export ORACLE_HOME Oracle のホーム・ディレクトリー (例: /home/oracle/OraHome1)。</pre>
ODBC (Sybase)	<pre>SYBASE=<i>full_dir_path</i> export SYBASE Sybase インストール・ディレクトリー (例: /home/sybase)。 ODBC=<i>full_dir_path</i> export ODBC ODBC ドライバーがインストールされているディレクトリー (例: /home/sybase/drivers)。 ODBCINI=<i>full_path_and_file_name</i> export ODBCINI obdc.ini ファイルへの絶対パス</pre>
Teradata	<pre>ODBCINI=<i>full_path_and_file_name</i> export ODBCINI obdc.ini ファイルへの絶対パス</pre>

ライブラリー環境変数

使用する UNIX オペレーティング・システムに応じて、以下のようにライブラリー環境変数を定義します。

オペレーティング・システム	値
SunOS および Linux	LD_LIBRARY_PATH 以下に例を示します。 LD_LIBRARY_PATH=<Campaign_Home>/bin:<DB lib ディレクトリーへのパス>:\$LD_LIBRARY_PATH export LD_LIBRARY_PATH 注: LD_LIBRARY_PATH_64 (64 ビット・リンク用) が設定されている場合、削除してください。 LD_LIBRARY_PATH_64 の設定時は、LD_LIBRARY_PATH 変数が無視されます。
AIX®	LIBPATH 例: LIBPATH=<Campaign_Home>/bin:<DB lib ディレクトリーへのパス>:/usr/lib:\$ORACLE_HOME/lib32:\$ORACLE_HOME/lib
HP-UX	SHLIB_PATH 例: SHLIB_PATH=<Campaign_Home>/bin:<DB lib ディレクトリーへのパス>:/usr/lib:\$ORACLE_HOME/lib32:\$ORACLE_HOME/lib

Oracle データベースのライブラリー・ディレクトリー

Oracle のバージョンに応じて、lib ディレクトリーの命名規則が異なります。比較的古いバージョンの場合、32 ビットでは lib、64 ビットでは lib64 を使用します。比較的新しいバージョンの場合、32 ビットでは lib32、64 ビットでは lib を使用します。

32 ビットの Campaign をインストールする場合、\$ORACLE_HOME/lib32 または \$ORACLE_HOME/lib のいずれか一方、つまり 32 ビットの Oracle ライブラリーが入っているものを含めてください。

64 ビットの Campaign をインストールする場合、\$ORACLE_HOME/lib または \$ORACLE_HOME/lib64 のいずれか一方、つまり 64 ビットの Oracle ライブラリーが入っているものを含めてください。

注: 32 ビットと 64 ビットの両方のライブラリーへのパスを含めないでください。ご使用の Campaign のバージョンに合わせて使用するライブラリーへのパスのみを含めてください。

ステップ: Campaign サーバーの始動

Campaign サーバーは、直接始動するか、またはサービスとしてインストールすることができます。

注: Campaign サーバーを始動する際、Marketing Platform および Campaign Web アプリケーションが配置および実行されていなければなりません。

IBM Unica Campaign データベース情報チェックリスト

Campaign システム・テーブルを保持するデータベースに関する情報を記録します。

フィールド	メモ
データベース・タイプ	
データベース名	
データベース・アカウントのユーザー名	
データベース・アカウントのパスワード	
JNDI 名	
ODBC 名	

UNIX でのインストールの場合に限り、以下の追加情報を取得します。これらの情報は、インストールおよび構成のプロセス中に `setenv.sh` ファイルを編集する際に使用します。

データベース情報	メモ
データベース・タイプが次のいずれかである場合は、データベース・インストール・ディレクトリーについてメモしてください。 <ul style="list-style-type: none"> • DB2 • Informix (クライアント) • Oracle • ODBC (Sybase) 	
データベース・タイプが次のいずれかである場合は、ODBC.ini ファイルの場所についてメモしてください。 <ul style="list-style-type: none"> • Informix • Netezza • ODBC (Sybase) • Teradata 	
データベース・タイプが ODBC (Sybase) である場合は、データベース・インストール済み環境における ODBC ドライバーの場所についてメモしてください。	
Campaign が Solaris、Linux、または AIX オペレーション・システムにインストールされている場合は、すべてのデータベース・タイプに対して、データベース・インストール済み環境における lib ディレクトリーの場所についてメモしてください。	

ステップ: インストール・ログでのエラーの確認

インストールの完了後に、Distributed Marketing インストール済み環境の /tools/logs/ ディレクトリーにある udm-tools.log ファイルを調べて、エラーがないかどうか確認してください。

注: 新規インストールを実行する場合、テーブル削除コマンドに関連するエラーについては、正常で予期されるものです。

インストーラーの実行後に行う EAR ファイルの作成

IBM Unica Marketing 製品のインストール後に EAR ファイルを作成する場合は、以下の手順に従ってください。この作業は、製品の異なる組み合わせを EAR ファイルに含める場合に行うことがあります。

複数の WAR ファイルは、単一のディレクトリーに入っていなければなりません。コマンド・ラインからコンソール・モードでインストーラーを実行します。

1. コンソール・モードでインストーラーを初めて実行する場合は、インストールされる製品ごとにインストーラーの .properties ファイルのバックアップ・コピーを作成します。

IBM Unica 製品インストーラーはそれぞれ、.properties 拡張子が付いた 1 つ以上の応答ファイルを作成します。これらのファイルはインストーラーが置かれている同一のディレクトリーに存在します。installer_product.properties ファイルおよび IBM Unica インストーラー自体のための installer.properties ファイルを含め、.properties 拡張子が付いたすべてのファイルを確実にバックアップしてください。

不在モードでインストーラーを実行する場合は、元の .properties ファイルをバックアップする必要があります。なぜなら、不在モードでインストーラーを実行すると、それらのファイルが消去されてしまうためです。EAR ファイルを作成するには、初回インストール時にインストーラーが .properties ファイルに書き込む情報が必要です。

2. コマンド・ウィンドウを開き、ディレクトリーを、インストーラーが入っているディレクトリーに変更します。
3. 次のオプションを指定して、インストーラーの実行可能ファイルを実行します。

```
-DUNICA_GOTO_CREATEEARFILE=TRUE
```

UNIX タイプのシステムでは、.sh ファイルではなく、.bin ファイルを実行します。

インストーラー・ウィザードが実行されます。

4. ウィザードの指示に従います。
5. 追加の EAR ファイルを作成する前に、.properties ファイルを、初めてコンソール・モードで実行する前に作成したバックアップ・コピーで上書きします。

ステップ: 手動での Distributed Marketing の登録 (必要な場合)

インストール・プロセス中に Distributed Marketing インストーラーが Marketing Platform システム・テーブル・データベースと接続できない場合は、この障害について知らせるエラー・メッセージが表示されます。インストール・プロセスは続行されますが、このケースでは、Distributed Marketing 情報を Marketing Platform システム・テーブルに手動でインポートする必要があります。

configTool ユーティリティーが、Marketing Platform インストール済み環境下の tools/bin ディレクトリーに置かれています。configTool ユーティリティーの使用手順について詳しくは、53 ページの『configTool ユーティリティー』を参照してください。

以下のコマンド例を指針として、configTool ユーティリティーを実行します。これにより、構成プロパティーとメニュー項目がインポートされます。存在するファイルの数と同じ回数、ユーティリティーを実行する点に注意してください。

```
configTool.bat -v -i -p "Affinium|suite|uiNavigation|mainMenu|Analytics" -f  
"%NAVIGATION_DIR%\DistributedMarketing_navigation_analytics.xml"
```

```
configTool.bat -v -i -p "Affinium|suite|uiNavigation|alerts" -f  
"%NAVIGATION_DIR%\DistributedMarketing_alert.xml"
```

```
configTool -r Collaborate -f  
"full_path_to_DistributedMarketing_installation_directory%conf%  
DistributedMarketing_configuration.xml"
```

```
configTool -v -i -p "Affinium|suite|uiNavigation|mainMenu" -f  
"full_path_to_DistributedMarketing_installation_directory%conf%  
DistributedMarketing_navigation.xml"
```

```
configTool -v -i -p "Affinium|suite|uiNavigation|settingsMenu" -f  
"full_path_to_DistributedMarketing_installation_directory%conf%  
DistributedMarketing_setings.xml"
```

第 4 章 配置前の構成

Web アプリケーションを配置する前に、このセクションで説明されている作業を実行する必要があります。

ステップ: Distributed Marketing システム・テーブルの作成とデータ設定

重要: このステップは、インストーラーの実行時に手動データベース・セットアップを選択した場合、またはインストール時に自動データベース・セットアップが失敗した場合にのみ必要となります。

Distributed Marketing システム・テーブルをシステム・テーブル・データベースに作成し、それらに必要なデータを設定してください。

1. `<Distributed_Marketing_home>/tools/bin/setenv.bat` ファイルまたは `setenv.sh` ファイルをテキスト・エディターで開きます。
2. `JAVA_HOME` パラメーターと `DBDRIVER_CLASSPATH` パラメーターがまだ設定されていない場合は、それらを設定します。
3. `<Distributed_Marketing_home>/tools/bin` ディレクトリーに置かれている、`udmdbsetup.bat` ファイルまたは `udmdbsetup.sh` ファイルを実行します。実行するインストールのタイプ (新規インストール、再インストール、またはアップグレード) に合った指示に従ってください。

新規インストールまたは再インストールの場合:

フルインストール・パラメーターを使用して `udmdbsetup` を実行します。ロケールおよびインストール・タイプに合った正しいパラメーター値を使用してください。以下の例では、`en_US` ロケールの Windows における新規インストールで、Distributed Marketing システム・テーブルを作成してデータを設定します。

```
udmdbsetup.bat -Len_US -tfull -v
```

アップグレード・インストールの場合:

アップグレード・パラメーターを使用して `udmdbsetup` を実行します。ロケール、インストール・タイプ、およびアップグレード元のバージョンに合った正しいパラメーター値を使用してください。以下の例では、`fr_FR` ロケールの UNIX におけるバージョン 8.2 からのアップグレードで、Distributed Marketing システム・テーブルを作成してデータを設定します。

```
udmdbsetup.sh -b8.2 -Lfr_FR -tupgrade -v
```

ステップ: 顧客データベースでのリスト・テーブルの作成

リストを使用可能にするには、顧客データベースに以下の 6 つのテーブルを作成する必要があります。

- `uacc_lists` - リストとして生成されるコンタクトのリスト。

- `uacc_ondemand_lists` - オンデマンド・キャンペーンによって生成されるコンタクトのリスト。
- `uacc_corporate_lists` - 企業キャンペーンのフローチャートによって生成されるコンタクトのリスト。
- `uacc_permanent` - リストに永続的に追加、またはリストから完全に削除されるコンタクトのリスト。
- `uacc_ondemand_permanent` - オンデマンド・キャンペーンに永続的に追加、またはオンデマンド・キャンペーンから完全に削除されるコンタクトのリスト。
- `uacc_corporate_permanent` - 企業キャンペーンに永続的に追加、または企業キャンペーンから完全に削除されるコンタクトのリスト。

重要: これらのテーブルは、リストの選択されたコンタクト ID を格納するもので、顧客テーブルと同じデータベースに作成する必要があります。

リスト・テーブルの作成方法

1. `listmanager.sql` テーブル作成スクリプトに、オーディエンス・レベルのための付加的な列を追加します。

`listmanager.sql` ファイルは、Distributed Marketing インストール済み環境下の `tools\admin\db\db_type` ディレクトリーにあります。ここで `db_type` は、使用しているデータベース・タイプであり、`sqlserver`、`oracle`、`db2`、`Netezza`、または `Teradata` です。

2. `listmanager.sql` スクリプトを実行して、必要なテーブルを作成します。

次のことに注意してください。

- スクリプトによって顧客データベースにテーブルが作成されます。
- データ・フィルタリングに関する特定の要件に基づいて、テーブルに列を追加することもできます。例えば、地域でフィルタリングするための列を追加できます。

ステップ: Distributed Marketing のための Campaign システム・テーブルの作成

重要: このステップは、インストーラーの実行時に手動データベース・セットアップを選択した場合、またはインストール時に自動データベース・セットアップが失敗した場合にのみ必要となります。

IBM Unica インストーラーの実行時に、手動でデータベースをセットアップすることを選択した場合は、Distributed Marketing のための IBM Unica Campaign システム・テーブル・データベース・スキーマに追加のシステム・テーブルを作成する必要があります。

`<Campaign_home>\ddl` ディレクトリーに置かれた `c1b_systab_<db_type>.sql` スクリプトを実行して、これらのテーブルを作成します。Campaign システム・テーブルをホストしているスキーマでこのスクリプトを実行してください。

注: インストール時に「自動データベース・セットアップ」オプションを選択した場合、このステップは不要です。

第 5 章 ステップ: Distributed Marketing Web アプリケーションの配置

Distributed Marketing を配置する際は、このセクションのガイドラインに従ってください。

IBM インストーラーを実行した時に、Distributed Marketing を EAR ファイルに組み込んだ可能性があります。あるいは、Distributed Marketing WAR ファイルを配置することもできます。Marketing Platform や他の製品を EAR ファイルに組み込んだ場合は、EAR ファイルに組み込まれた製品それぞれのインストール・ガイドに詳述されている、すべての配置ガイドラインに従ってください。

ここでは、Web アプリケーション・サーバーの操作方法を把握していることを前提としています。管理コンソールでのナビゲーションなどの詳細については、Web アプリケーション・サーバーの資料を参照してください。

WebSphere 用のガイドライン

IBM Unica Marketing アプリケーション・ファイルを WebSphere に配置する際は、このセクションのガイドラインに従ってください。

- 必要なフィックスパックまたはアップグレードを含め、WebSphere のバージョンが、「*IBM Unica Enterprise* 製品の推奨されるソフトウェア環境と最小システム要件」ドキュメントに記述されている要件に合うことを確認してください。
- 以下のように、JSP コンパイラーの JDK ソース・レベルを確実に Java 1.5 に設定してください。
 - WAR ファイルの参照と選択を行うフォームで、「すべてのインストール・オプションとパラメーターを表示」を選択して「インストール・オプションの選択」ウィザードを実行させます。
 - 「インストール・オプションの選択」ウィザードのステップ 1 で、「**JavaServer Pages** ファイルのプリコンパイル」を選択します。
 - 「インストール・オプションの選択」ウィザードのステップ 3 で、「**JDK ソース・レベル**」を確実に 15 に設定します。

WebSphere への配置手順

1. IBM Unica アプリケーション・ファイルをエンタープライズ・アプリケーションとして配置します。
2. サーバーの「**Web** コンテナ設定」>「セッション管理」セクションで、Cookie を有効にします。
3. サーバーの「アプリケーション」>「エンタープライズ・アプリケーション」セクションで、配置した EAR ファイルまたは WAR ファイルを選択してから、「**クラス・ロードおよび更新の検出**」を選択し、以下の一般プロパティを設定します。
 - WAR ファイルを配置する場合:

- 「クラス・ローダー順序」について、「最初にローカル・クラス・ローダーをロードしたクラス (親は最後)」を選択します。
- 「WAR クラス・ローダー・ポリシー」で、「アプリケーションの単一クラス・ローダー」を選択します。
- EAR ファイルを配置する場合:
 - 「クラス・ローダー順序」について、「最初にローカル・クラス・ローダーをロードしたクラス (親は最後)」を選択します。
 - 「WAR クラス・ローダー・ポリシー」で、「アプリケーションの各 WAR ファイルのクラス・ローダー」を選択します。
- 4. システム・テーブルが DB2 にある場合は、データ・ソースのカスタム・プロパティに移動します。「resultSetHoldability」の値を 1 に設定します。

「resultSetHoldability」という名前のフィールドがない場合は、その名前のカスタム・プロパティを追加し、その値を 1 に設定します。
- 5. 複数の IBM Unica アプリケーションを配置する場合は、以下のように、配置した各アプリケーションのセッション Cookie 名を、一意になるように変更します。
 - サーバーの「アプリケーション」>「エンタープライズ・アプリケーション」> [配置したアプリケーション] >「セッション管理」>「Cookie を使用可能にする」>「Cookie 名」セクションで、セッション Cookie 名を指定します。
 - 「セッション管理のオーバーライド」チェック・ボックスを選択します。

汎用 JVM 引数の指定

サーバーの Java 仮想マシン・プロパティに、以下の汎用 JVM 引数を指定します。

- -Dcollaborate.home= Distributed Marketing インストール・ディレクトリー
- -Dclient.encoding.override=UTF-8
- 最良の結果を得るため、「初期ヒープ・サイズ」フィールドおよび「最大ヒープ・サイズ」フィールドの両方に 1024 を入力して、JVM のメモリー・ヒープ・サイズ・パラメーターを設定してください。

WebLogic 用のガイドライン

IBM Unica Marketing 製品を WebLogic に配置する際は、このセクションのガイドラインに従ってください。

すべてのバージョンの WebLogic、すべての IBM Unica Marketing 製品

- IBM Unica Marketing 製品により、WebLogic で使用される JVM がカスタマイズされます。JVM 関連のエラーが発生した場合に、IBM Unica Marketing 製品専用の WebLogic インスタンスを作成しなければならないことがあります。
- 始動スクリプト (startWebLogic.cmd) で JAVA_VENDOR 変数を調べて、使用する WebLogic ドメイン用に選択された SDK が Sun SDK であることを確認します。JAVA_VENDOR=Sun に設定されている必要があります。JAVA_VENDOR=BEA に

設定されている場合、JRocket が選択されています。 JRocket はサポートされていません。選択された SDK を変更するには、WebLogic の資料を参照してください。

- IBM Unica Marketing 製品を Web アプリケーション・モジュールとして配置します。
- UNIX システムの場合、グラフィカルなグラフを正常にレンダリングできるように、コンソールから WebLogic を始動する必要があります。コンソールは通常、サーバーが稼働しているマシンにあります。しかし、Web アプリケーション・サーバーが別の仕方ですべてセットアップされていることもあります。

コンソールがアクセス不能、または存在しない場合は、Exceed を使用してコンソールをエミュレートすることができます。ルート・ウィンドウ・モードまたはシングル・ウィンドウ・モードで UNIX マシンにローカル Xserver プロセスが接続されるように Exceed を構成する必要があります。 Exceed を使用して Web アプリケーション・サーバーを始動する場合は、バックグラウンドで Exceed を引き続き実行させて、Web アプリケーション・サーバーが稼働し続けられるようにしてください。グラフのレンダリングで問題が発生した場合は、IBM Unica テクニカル・サポートに連絡して詳細な指示を求めてください。

Telnet または SSH を介して UNIX マシンに接続すると、グラフのレンダリングで必ず問題が発生します。

- IIS プラグインを使用するように WebLogic を構成する場合は、WebLogic の資料を調べてください。
- startWeblogic.cmd または startWeblogic.sh の JAVA_OPTIONS セクションに、以下のパラメーターを追加してください。
-Dcollaborate.home=Distributed Marketing インストール・ディレクトリー
-Dfile.encoding=UTF-8
- 実稼働環境で配置を行う場合、JVM メモリー・ヒープ・サイズ・パラメーターを 1024 に設定するために、setDomainEnv スクリプトに以下の行を追加してください。Set MEM_ARGS=-Xms1024m -Xmx1024m -XX:MaxPermSize=256m

第 6 章 配置後の構成

Distributed Marketing を配置した後に、このセクションで説明されている作業を実行する必要があります。

これは基本インストールのために実行する必要がある最小限の構成である点に注意してください。 Distributed Marketing を使用してお客様のビジネス・ニーズを満たすには、「*IBM Unica Distributed Marketing 管理者ガイド*」に説明されている追加の構成を実行してください。

ステップ: システム・ユーザーのセットアップ

Marketing Platform での AdminRole 役割を持つユーザーとして IBM Unica Marketing にログインし、少なくとも以下の権限を持つユーザーを作成します。

- Distributed Marketing での DistributedMarketingAdminRole 役割
- Campaign での管理者 (Admin) ロール

ユーザー名をメモしておいてください。これは、後のステップでこの名前を systemUserLoginName パラメーターと flowchartServiceCampaignServicesAuthorizationLoginName パラメーターの値として使用する必要があるためです。

ステップ: 基本インストールに必要なパラメーターの設定

以下のパラメーターと追加の構成プロパティをアップデートするには、IBM Unica Marketing ユーザー・インターフェースの「設定」>「構成」を選択します。

詳細については、「*IBM Unica Distributed Marketing 管理者ガイド*」を参照してください。

パラメーター	説明
jndiname	Distributed Marketing システム・テーブル・データベースに対する接続のために Web アプリケーション・サーバーで構成した JNDI 名。
systemUserLoginName	システム・タスク (システム・タスク・モニターやスケジューラーなど) で使用される Marketing Platform ユーザーのログイン名。 IBM は、システム・ユーザーを通常の Distributed Marketing ユーザーにしないことを強くお勧めします。
notifyCollaborateBaseURL	Distributed Marketing の完全修飾 URL。 Distributed Marketing がインストールされた場所のコンピューター名および会社ドメインと、Web アプリケーション・サーバーが listen しているポートに対するポート番号を入力することにより、この URL を編集します。例えば、http://collaborateserver.companyDomain:7001/collaborate などとします。

パラメーター	説明
flowchartServiceCampaignServicesURL	<p>フローチャートの実行やフローチャート・データの取得などに使用すべき CampaignServices Web サービスへの URL。</p> <p>デフォルトは <code>http://Server-Name:Port/Campaign/services/CampaignServices30Service</code> です。</p> <p>ここで、<i>Server-Name</i> と <i>Port</i> は、<code>notifyCollaborateBaseURL</code> パラメーターによって定義されます。</p> <p>注: Distributed Marketing と異なるマシンまたはポートに Campaign をインストールしていない限り、このパラメーターのデフォルト値を変更しないでください。</p>
flowchartServiceCampaignServicesAuthorizationLoginName	<p>asm_admin など、すべてのデータ・ソースに対するアクセス権限を含む管理者としての権限を持つ、Campaign ユーザー。</p>
flowchartServiceNotificationServiceURL	<p>Campaign から通知を受け取る Distributed Marketing の通知サービスへの URL。</p> <p>注: 標準でないコンテキスト・ルートを使用する場合、このパラメーターを指定する必要があります。</p>
uploadDir	<p>Distributed Marketing アップロード・ディレクトリーへの絶対パス。このパスを、Distributed Marketing アップロード・ディレクトリーへの絶対パスを含むように編集してください。例えば、<code>c:%Unica%DistributedMarketing%projectattachments</code> などとします。</p> <p>UNIX を使用している場合、Distributed Marketing ユーザーがこのディレクトリー内のファイルの読み取り、書き込み、および実行を行う権限を持っていることを確認してください。</p>
taskUploadDir	<p>Distributed Marketing タスク・アップロード・ディレクトリーへの絶対パス。このパスを、Distributed Marketing タスク・アップロード・ディレクトリーへの絶対パスを含むように編集してください。例えば、<code>c:%Unica%DistributedMarketing%taskattachments</code> などとします。</p> <p>UNIX を使用している場合、Distributed Marketing ユーザーがこのディレクトリー内のファイルの読み取り、書き込み、および実行を行う権限を持っていることを確認してください。</p>
templatesDir	<p>Distributed Marketing テンプレート・ディレクトリーへの絶対パス。このパスを、Distributed Marketing テンプレート・ディレクトリーへの絶対パスを含むように編集してください。例えば、<code>c:%Unica%DistributedMarketing%templates</code> などとします。</p> <p>UNIX を使用している場合、Distributed Marketing ユーザーがこのディレクトリー内のファイルの読み取り、書き込み、および実行を行う権限を持っていることを確認してください。</p>
serverType	<p>使用している Web アプリケーション・サーバーのタイプ。有効な値は、WEBLOGIC または WEBSHERE です。</p>

パラメーター	説明
defaultCampaignPartition	デフォルトの Campaign パーティション。プロジェクト・テンプレート・ファイル内に <campaign-partition-id> タグを定義しない場合、Distributed Marketing はこのパラメーターを使用します。 値を partition1 に設定してください。
defaultCampaignFolderId	デフォルトの Campaign フォルダー ID。プロジェクト・テンプレート・ファイル内に <campaign-folder-id> タグを定義しない場合、Distributed Marketing はこのパラメーターを使用します。 値を 2 に設定してください。
collaborateAttachmentsDIRECTORY_directory	Campaign におけるフローチャートによって生成される添付ファイルのディレクトリーを指定します。このパスは、デフォルトの Campaign パーティション・ディレクトリーと一致していなければなりません。
notifyEMailMonitorJavaMailHost	お客様の組織の SMTP サーバーのマシン名または IP アドレス。
notifyDefaultSenderEmail	電子メール通知の送信に使用できる有効な電子メール・アドレスが他にない場合に、Distributed Marketing が電子メールの送信に使用する、有効な電子メール・アドレス。
templateAdminGroup_Name	テンプレート構成オプションへのアクセス権限を持つグループのリスト。同じ名前のグループが Marketing Platform に存在していなければなりません。複数のグループは、コンマで区切る必要があります。デフォルト値は Template Administrators です。
defaultListTableDSName	データ・ソース名が定義されていない場合に、テンプレートのインポート時にテンプレートに使用するデータ・ソース名。
templateAutoGenerateNameEnabled	テンプレート名を自動生成するか (true)、またはしないか (false) の指定。デフォルト値は true です。

ステップ: リスト表示の構成

社内のマーケティング担当者がフィールド・マーケティング担当者とリストを共有できるようにするには、顧客データにリンクするようにこれらのリストを構成する必要があります。Distributed Marketing データベース設定を構成する際は、最初にリスト・テーブルを作成する必要があります。その後、表示形式、検索条件、およびテーブルの関係を構成します。

リスト表示をセットアップするには、以下の手順を実行します。

- 38 ページの『オプションのステップ: リスト表示用のデータ・フィルターのセットアップ』
- 27 ページの『ステップ: 顧客データベースでのリスト・テーブルの作成』
- 38 ページの『ステップ: 「リストの表示」 ページおよび「リストの検索」 ページの構成』

オプションのステップ: リスト表示用のデータ・フィルターのセットアップ

データ・フィルターは Marketing Platform 全体で使用可能です。これにより、IBM Unica Marketing のユーザーに対して表示するデータを制限することができます。

例えば、地域に基づくデータ・フィルターを作成して、各地域のフィールド・マーケティング担当者が、自分の担当地域の顧客のみを閲覧できるようにすることが可能です。データ・フィルターは、リストの作成時、フィールド・マーケティング担当者によるリストの検討や他のコンタクトの検索の時、およびフォームでの作業時を含め、Distributed Marketing で表示されるすべてのデータに適用されます。

リスト表示用のデータ・レベル・フィルタリングによる影響を受けるコンポーネント

これらのデータ・フィルターを構成する際は、以下に示す Marketing Platform の 3 つのコンポーネント間で調整が必要です。

- Marketing Platform 全体におけるデータ・フィルター
- Distributed Marketing でのリストとフォーム
- Campaign でのテーブル・マッピングとフローチャート

データ・フィルターを構成するワークフローの例

以下の例は、顧客の地域に基づいてリスト表示のデータ・レベル・フィルタリングをセットアップする場合に必要な手順を示しています。

1. Distributed Marketing のリスト・テーブルに **region_id** 列を作成します。
2. 顧客データベース内のリスト・マネージャー・テーブルの **region_id** 列に基づいて、各地域について Marketing Platform にデータ・フィルターを作成します。
3. Campaign を使用して、リスト・テーブルの **region_id** 列を顧客データベースの **region_id** 列にマップします。
4. **region_id** 列にデータを設定するフローチャートを、Campaign で作成します。
5. **region_id** 列に基づいてフィルタリングするために、リスト表示とフォーム・テンプレートを Distributed Marketing で構成します。

注: 上記の例に示すように、データ・フィルタリングは、プランニングが必要な反復プロセスとなります。Marketing Platform、Campaign、および Distributed Marketing にわたって構成を調整する必要があります。これらのコンポーネント間では必ず同じ命名規則を使用してください。

ステップ: 「リストの表示」 ページおよび 「リストの検索」 ページの構成

フィールド・マーケティング担当者がリストを検討できるようにするには、「リストの表示」 ページおよび 「リストの検索」 ページのフォーマット設定と構成が必要です。以下のガイドラインに、「リストの表示」 および 「リストの検索」 の構成ファイルに加える必要がある一般的な変更を示します。

注: あるオーディエンス・レベルで検索画面が構成されていない場合、ユーザーはそのオーディエンス・レベルのリストを検討する際にレコードを追加できません。つまり、「レコードを追加」リンクが無効になります。

データベース接続の構成

以下のように、Distributed Marketing インストール済み環境下の `conf` ディレクトリに置かれた `listmanager_tables.xml` ファイルを編集します。

- 顧客テーブルが含まれるデータ・ソースを定義します。
- アクセス対象のテーブルを定義します。
- 「リストの表示」ページに表示したいテーブル内の列を定義します。

注: `listmanager_tables.xml` のコピーは 1 つだけあります。これにより、「リストの表示」画面および「リストの検索」画面で使用する列を定義します。`listmanager_tables.xml` を、`listmanager_list.xml` ファイルと `listmanager_searchScreens.xml` ファイルの両方のために適切に構成してください。

「リストの表示」ページの構成

以下のように、Distributed Marketing インストール済み環境下の `conf` ディレクトリに置かれた `listmanager_list.xml` ファイルを編集します。

- List 要素でデータ・ビューのタイプを定義します。
- 各ビューに表示するデータを定義します。
- 各ビューのソート順を定義します。
- 顧客の詳細を表示するためのアプリケーションを定義します。

「リストの検索」ページの構成

以下のように、Distributed Marketing インストール済み環境下の `conf` ディレクトリに置かれた `listmanager_searchScreens.xml` ファイルを編集します。

- 使用可能な検索条件を定義します。
- Distributed Marketing で結果を表示する方法を定義します。

リスト・マネージャーのリスト・テーブルの無効化について

リスト・マネージャーを使用しない場合は、`DistributedMarketing_configuration.xml` ファイルを編集し、`listManagerEnabled` パラメーターを `false` に設定する必要があります。

リスト表示の構成ファイル

Distributed Marketing は、以下の 3 つの XML ファイルを介してリストの表示を制御します。

- `listmanager_tables.xml`
- `listmanager_list.xml`
- `listmanager_searchScreens.xml`

これらのファイルは、Distributed Marketing インストール済み環境下の conf ディレクトリーに置かれています。

インストール時に、付属のサンプル・データによって機能する例が、これらの XML ファイルに設定されます。

以下の点に注意してください。

- 特殊文字を listmanager XML ファイルに追加するには、Unicode エンコード方式を使用します。例えば、é は U+00E9 とエンコードする必要があります。
- 特定の文字を構成ファイルで使用するには、XML エンティティーを使用する必要があります。例えば、< は XML 構文の一部であるため、これを値として使用すると構成ファイルが壊れます。< のエンティティーである < を使用する必要があります。
- listmanager XML ファイルを更新 (新規列や新規リスト表示の追加など) する場合は、対応するプロパティー・ファイル (list_language.properties と searchscreen_language.properties) も更新する必要があります。

listmanager_tables.xml

listmanager_tables.xml ファイルを使用して、以下を宣言できます。

- リスト内容の基準となる、組織のデータ・モデルのオーディエンス・レベル
- データ・ソース
- 検索画面およびリスト画面で使用されるテーブル

AudienceLevel

AudienceLevel は、データ・モデルのオーディエンス・レベルを定義します。これには以下の属性が含まれています。

- Label - オーディエンス・レベルの簡略説明。
- Name - オーディエンス・レベルを特定するためのコード。これは、listmanager_list.xml ファイルの List 要素の AudienceLevel 属性と一致していなければなりません。
- Table - オーディエンス・レベルを含むテーブルの名前。
- Datasource - 顧客データベースからのテーブルへのアクセスに使用されるデータ・ソースの名前。

以下に例を示します。

```
<AudienceLevel Label="Indiv" Name="Individual" Table="v_indiv_contact"
  Datasource="JNDI_Name_for_customer_DB">
```

各 AudienceLevel 要素には、次のように Column という子要素が含まれます。

```
<AudienceLevel ...>
  <Column... />
</AudienceLevel>
```

Column

Column パラメーターは、オーディエンス・レベル・テーブル内の ID 列を指定します。Column には、オーディエンス・テーブル内の ID 列の名前として、単一の属性 Name が入ります。以下に例を示します。

```
<Column Name="Indiv_ID"/>
```

DataSource

Datasource 要素は、テーブルにアクセスするために宣言されるデータ・ソースを定義します。これには以下の属性が含まれています。

- Name - Web アプリケーション・サーバーでのデータ・ソースの JNDI 名。
- Type - データベース・タイプ。有効な値は SQLSERVER、DB2、ORACLE、NETEZZA、または TERADATA です。
- DecimalSeparator - 小数位を示す文字。有効な値はピリオド (.) またはコンマ (,) です。

以下に例を示します。

```
<Datasource Name="ACC_DEMO" Type="SQLSERVER" DecimalSeparator="."/>
```

Table

Table は、検索画面とリスト画面のベースとなるテーブルを定義します。この要素には以下の属性が含まれています。

- Name - テーブルの名前。
- DataSource - テーブルにアクセスするために使用されるデータ・ソース。
- Owner - データベースの所有者またはスキーマ (テーブル名の接頭部に使用)。

以下に例を示します。

```
<Table Name="v_indiv_contact" Datasource="ACC_DEMO" Owner="dbo">
```

次のように、各 Table 要素には子要素 Column が含まれ、これにはオプションで LinkedTo パラメーターを含めることができます。

```
<Table ...>  
  <Column...>  
    <LinkedTo ... />  
  </Column>  
</Table>
```

Column

Column パラメーターでは、Table 親要素で定義されたテーブル内の各列について記述します。これには以下の属性が含まれています。

- Name - 列の名前。
- Type - 列に格納されるデータのタイプ。有効な値は A (英数字)、N (数値)、D (VARCHAR の yyyyymmdd として格納される日付)、F (DATE/DATETIME として格納される日付) です。
- Length - 列の長さ。
- DecimalLength - 数値列の小数部の長さ。

以下に例を示します。

```
<Column Name="Indiv_ID" Type="N" Length="10" />
```

LinkedTo パラメーターは、参照を定義するテーブルと列の関係を指定します。例えば、テーブルに userID 列と householdID 列が含まれるとします。これらの列は別のテーブルを参照する必要があり、そのテーブルによって userID が顧客オーディエンスに、householdID が世帯オーディエンスに関係付けられます。

この要素には以下の属性が含まれています。

- Table - 参照が定義されるテーブル。
- Column - 参照が定義されるテーブルのキーク列。

以下に例を示します。

```
<LinkedTo Table="v_indiv_contact" Column="Indiv_ID"/>
```

listmanager_list.xml

listmanager_list.xml ファイルを使用して、「リストの表示」画面を構成できます。

List

List 要素では、リスト表示形式を記述します。コードが一意である限り、複数の表示形式を定義できます。適用する形式を、リスト画面を開く際に選択することができます。例えば、コンタクトの名前、住所、および電話番号のみが表示されるコンタクト形式を作成し、さらにコンタクトの所得、年齢、および性別が表示される人口統計形式を作成することなどができます。

この要素には以下の属性が含まれています。

- Name - リスト表示形式の名前。
- Code - リスト表示形式のコード。これは一意でなければなりません。
- AudienceLevel - リスト表示形式の基準となるオーディエンス・レベル。このオーディエンス・レベルは、listmanager_tables.xml ファイルに定義されています。
- Multiple - true に設定されていると、リストのメンバーを複数選択できます。false に設定されていると、リストのメンバーを 1 つだけ選択できます。
- Datasource - 顧客データベースからのテーブルへのアクセスに使用されるデータ・ソースの名前。

以下に例を示します。

```
<List Name="Contact" Code="CONTACT" AudienceLevel="Individual"  
  Datasource="JNDI_Name_for_customer_DB">
```

各 List 要素には、以下のように Select、Order、および Link 子要素を含めることができます。

```
<List ... >  
  <Select ... />  
  <Order ... />  
  <Link ... />  
</List>
```

Select

Select 要素では、リスト内容に表示するテーブルと列を記述します。 Distributed Marketing は、このファイル内に配置されている順序と同じ順序で列を表示します。

この要素には以下の属性が含まれています。

- Table - 表示するテーブルの名前。これは、listmanager_tables.xml ファイルにも定義する必要があります。
- Column - 関係したテーブルから表示する列の名前。これは、listmanager_tables.xml ファイルにも定義する必要があります。
- Label - 列ヘッダーのラベル。これは、各 list_language.properties リソース・バンドル・ファイルに入っている、ローカライズされた記述子によって置換されるタグです。

以下に例を示します。

```
<Select Table="v_indiv_contact" Column="indiv_id" Label="indiv_id"/>
```

Order

Order 要素では、デフォルトのソート列を記述します。これには以下の属性が含まれています。

- Table - ソート列を含むテーブルの名前。これは、listmanager_tables.xml ファイルにも定義する必要があります。
- Column - ソートの基準となる列。これは、listmanager_tables.xml ファイルにも定義する必要があります。
- Label - 順序のタイプ。有効な値は、昇順のソートである ASC、または降順のソートである DESC です。

以下に例を示します。

```
<Order Table="v_indiv_contact" Column="last_name" Type="ASC"/>
```

Link

Link 要素では、顧客詳細を含む外部アプリケーションの URL を記述します。Link 要素はオプションです。これには以下の属性が含まれています。

- URL - パラメーターを含まない、アプリケーションのベース URL。
- Label - リンク・ラベルまたはアイコン・ツールチップ。
- Logo - アイコンとして使用されるファイルの名前。(オプション)
- LogoHeight - アイコンの高さ。(Logo 属性との併用のみ。)
- LogoWidth - アイコンの幅。(Logo 属性との併用のみ。)
- NavName - ブラウザー名。

各 Link 要素には、複数の Param 子要素を含めることができます。

以下に例を示します。

```
<Link Url="http://localhost:7073/LeadsContact/callLeads.jsp"
Label="last_name" Logo="contact.gif">
  <Param Name="affiniumUserName" Type="user" Value="userlogin"/>
  <ParamName="LeadsRmcTbid" Type="column"
  Value="v_customer_contact.customer_id"/>
</Link>
```

Param

Param 要素では、ベース URL に追加するパラメーターを記述します。これには以下の属性が含まれています。

- Name - http パラメーター名。
- Type - 送信する情報のタイプ。有効な値は、現在ログインしているユーザーの情報を送信するための user と、指定した列の値を送信するための column です。
- Value - 送信する特定の情報。Type 属性値が user の場合、Value 属性の有効な値は userlogin と userid です。Type 属性値が column の場合、Value 属性の有効な値は、Table.column として指定した、ベース URL に付加される値を持つ列です。
- DateFormat - 送信日の形式。日付列のみで使用 (タイプ D または F)。

以下に例を示します。

```
<Param Name="affiniumUserName" Type="user" Value="userlogin"/>  
<ParamName="LeadsRmcTbid" Type="column" Value="v_customer_contact.customer_id"/>
```

listmanager_searchScreens.xml

listmanager_searchScreens.xml ファイルを使用して、オーディエンス・レベルと他の条件に基づき「リストの検索」画面をカスタマイズできます。

このファイルは以下を定義します。

- 条件フィールド
- 表示結果フィールド

Distributed Marketing で使用するために、さまざまなオーディエンス、さまざまな条件、また検索結果に基づく複数の検索画面を定義できます。フィールド・マーケティング担当者が検索を利用する際、画面の外観は、listmanager_tables.xml ファイルに構成されているオーディエンス・レベルに基づいたものとなります。同じオーディエンス・レベルに基づくさまざまな画面が存在する場合、フィールド・マーケティング担当者は、それら各種の定義済み検索から選択できます。例えば、名前と住所のみが含まれる基本検索を作成し、続いて名前、住所、所得、およびアカウント使用状況が含まれる詳細検索を作成することができます。

特定のキャンペーンまたはリストにおいてリスト・マネージャーに人々が追加されないようにするため、特定のオーディエンス・レベルに対して検索画面を定義しないようにすることもできます。検索画面が定義されていないため、そのオーディエンス・レベルに基づくコンタクトを、フィールド・マーケティング担当者は追加できなくなります。

各々の要素およびサブ要素と、それらに関連する属性を以下に示します。

Listmanager_searchScreen.xml には、いくつかの SearchScreen 要素が含まれています。それらの各々では、複数条件検索画面の条件と結果のセットを設定します。この要素には以下の属性が含まれています。

- Name - 画面の名前。
- AudienceLevel - 検索画面の基準となるオーディエンス・レベル。 AudienceLevel は、listmanager_tables.xml ファイルに定義されています。

- Label - 列ヘッダーのラベル。
- MultiSelect - true に設定されていると、最終リストの要素を複数選択できます。 false に設定されていると、最終リストの要素を 1 つだけ選択できます。
- Datasource - 顧客データベースからのテーブルへのアクセスに使用されるデータ・ソースの名前。

以下に例を示します。

```
<SearchScreen Name="default_indiv_search" AudienceLevel="Individual"
  Label="default_indiv_search" MultiSelect="true"
  Datasource="JNDI_Name_for_customer_DB">
```

各 SearchScreen タグの構造は以下のとおりです。

```
<SearchScreen ... >
  <Criteria ... >
    <Field ... >
      <Lookup ... />
    <Field ... />
  </Criteria>
  <Result ... >
    <Field ... />
    <Order ... />
  </Result>
</SearchScreen>
```

Criteria

Criteria 要素は検索条件を指定します。これには、検索条件フィールドが記述される Field 要素が含まれます。

Field

Field 要素には以下の属性が含まれています。

- Table - 検索のベースとなるテーブル。
- Column - 検索のベースとなる列。
- Label - 条件の画面に表示される記述子。これは、各 searchScreen_language.properties リソース・バンドル・ファイルに入っている、ローカライズされた記述子によって置換されるタグです。
- Operator - 演算のタイプ。有効な値は =、like、<、>、<=、>=、<> です。
- Default - オプションのデフォルト値です。これは、@userlogin に設定可能で、実行時にユーザー・ログインによって置換されます。
- Order - 画面上での条件の表示順序。
- Long - (オプション) 条件値の長さ。これが指定されていない場合、listmanager_tables.xml ファイルに含まれる、テーブルの列の属性の長さに定義された値が、条件で採用されます。
- Minimallength - (オプション) 条件値の文字の最小数。
- Case - (オプション) 条件値の大/小文字。有効な値は Lower または Upper です。
- Displayed - (オプション) 条件の表示または非表示。有効な値は true または false です。

以下に例を示します。

```
<Field Table="v_indiv_contact" Column="username" Label="username"
  Operator="" Displayed="false" Default="@userlogin" Order="5"/>
```

Field 要素には、Lookup 要素を含めることができます。Lookup 要素は、リスト・ボックス条件にデータを設定する仕方を指定します。Lookup 要素には以下の属性が含まれています。

- Table - リストのデータが含まれるテーブル。
- Id - リストのデータが含まれる ID 列。
- Desc - リストの説明。
- Where - (オプション) Where 節による値のフィルタリングを可能にします。
- Display - (オプション) リスト・ボックスに表示する内容、すなわちコードまたは説明 (あるいは両方) を指定します。値は id、desc、id - desc、または desc - id です。

以下に例を示します。

```
<Lookup Table="lkp_region" Id="Region_id" Desc="Region"
  Where="" Display="desc"/>
```

Result

Result 要素は検索結果セットを指定します。これには Field 要素と Order 要素が含まれています。

Field

Field 要素は表示結果フィールドを指定します。Field には以下の属性が含まれています。

- Table - 検索結果が含まれるテーブル。
- Column - 検索結果が含まれる列。
- Label - 結果リストのヘッダーに表示される記述子。
- Format - ルックアップ・テーブルとの関係がある列の場合に、リスト・ボックス条件に表示する形式 (コードまたは説明、あるいは両方)。値は code、label、code - label、または label - code です。

以下に例を示します。

```
<Field Table="v_indiv_contact" Column="Indiv_ID" Label="indiv_id"/>
```

Order

Order 要素は、結果レコードに表示されるソート列を指定します。Order には以下の属性が含まれています。

- Table - レコードがソートされる列のテーブル。
- Column - レコードがソートされる列。
- Type - ソート順。有効な値は ASC または DESC です。

以下に例を示します。

```
<Order Table="v_indiv_contact" Column="Last_Name" Type="ASC"/>
```

ステップ: Campaign での Distributed Marketing テーブルのマッピング

Campaign でリスト・テーブルをマップする必要があります。以下のテーブルをマップしてください。

- uacc_lists
- uacc_ondemand_lists
- uacc_corporate_lists
- uacc_permanent
- uacc_ondemand_permanent
- uacc_corporate_permanent

テーブルのマッピングについて詳しくは、「*Campaign 管理者ガイド*」を参照してください。

ステップ: Distributed Marketing のための Campaign システム・テーブルのマッピング

Campaign システム・テーブルをホストしているスキーマで `clb_systab_<db_type>.sql` スクリプトを実行した後は、Campaign で新しいテーブルをマップする必要があります。

それらのテーブルを以下のようにマップしてください。

システム・テーブル	マップ先のデータベース・テーブル
プロセス・テーブル	UA_Process
フローチャート・パラメーター・テーブル	UA_ProcAttribute
ユーザー変数テーブル	UA_UserVariable
ユーザー変数列挙テーブル	UA_EnumUserVarVal
表示順序テーブル	UA_ccDisplayOrder
実行結果テーブル	UA_RunResult
下位属性テーブル	UA_Subattribute

Campaign におけるシステム・テーブルのマッピング手順については、「*IBM Unica Campaign 管理者ガイド*」を参照してください。

ステップ: CollaborateIntegrationServicesURL パラメーターの変更

1. 「設定」 > 「構成」 > 「Campaign」 > 「Collaborate」と開きます。
2. 「CollaborateIntegrationServicesURL」で、「設定の編集」をクリックします。
3. `http://server:port/collaborate/services/CollaborateIntegrationServices/1.0` を `http://server:port/collaborate/services/CollaborateIntegrationServices1.0` に変更します。

ステップ: Distributed Marketing インストール済み環境の検証

Distributed Marketing がインストールされたことを検証するには、IBM Unica Marketing にログインし、「地域マーケティング」メニューにアクセス可能であることを確認します。「地域マーケティング」メニューから、リスト、オンデマンド・キャンペーン、企業キャンペーン、配信登録、およびカレンダーにアクセスできます。

Campaign または Distributed Marketing Web アプリケーションのいずれかを再始動した場合は、それらの両方を再始動する必要があります。

第 7 章 Distributed Marketing のアップグレードについて

Distributed Marketing のいずれかのバージョンからアップグレードする前に、Distributed Marketing の古いバージョンから新しいバージョンにアップグレードする際に行う必要があることを把握するため、このセクション内のすべてのトピックを必ず読んで理解しておいてください。

アップグレードの順序

アップグレードの際は、17 ページの『Distributed Marketing コンポーネントのインストール先』に説明されている考慮事項が同様に適用されます。

Distributed Marketing アップグレード・シナリオ

Distributed Marketing のアップグレードについては、以下のガイドラインに従ってください。

ソース・バージョン	アップグレード・パス
Affinium Collaborate 7.x または 8.5 より前のバージョンの Distributed Marketing	Distributed Marketing 8.5 にアップグレードしてから Distributed Marketing 8.6.0 にアップグレードする必要があります。
Distributed Marketing 8.5	Distributed Marketing 8.5 上に、バージョン 8.6.0 のインプレース・インストールを実行します。

Distributed Marketing 8.5 からのアップグレード

Distributed Marketing 8.5 から Distributed Marketing の新しいバージョンにアップグレードするには、このセクションに詳述されているタスクを実行します。

Distributed Marketing のバックアップ

アップグレード・プロセスの開始前に、すべてのファイルと Distributed Marketing データベースをバックアップしてください。アップグレード・プロセス中の問題発生時に既知の作業状態を復元する手だてを備えるために、これを行われることを強くお勧めします。

Distributed Marketing の配置解除

このステップは、Distributed Marketing のアップグレード・インストールで更新される Distributed Marketing ソース・システム上の WAR ファイルに対するロックを、Web アプリケーション・サーバーに解放させるために実行する必要があります。こうして、Distributed Marketing のアップグレードにより、Marketing Platform における新しいバージョンの Distributed Marketing の登録が可能になります。

Web アプリケーション・サーバーのシャットダウンと再始動

IBM Unica Distributed Marketing の配置解除の後、Web アプリケーション・サーバーをシャットダウンして再始動することで、WAR ファイルに対するロックを確実に解放します。

アップグレード・モードでの Distributed Marketing のインストール

アップグレード・モードで Distributed Marketing をインストールするには、18 ページの『ステップ: IBM Unica インストーラーの実行』に詳述されているインストール手順に従ってください。

インストール中にインストールの場所に関するプロンプトが出されたら、Distributed Marketing インストール・ディレクトリーの親ディレクトリーの場所を指定してください。

インストーラーは既存のバージョンの Distributed Marketing を検出し、アップグレードの確認を促すプロンプトを出します。アップグレードを確定すると、インストーラーは自動的にアップグレード・インストールを実行します。

アップグレード・インストールでは、新しいバージョンの Distributed Marketing のために、以前に移行済みの登録情報が更新されます。

ステップ: Distributed Marketing システム・テーブルの作成とデータ設定

重要: このステップは、インストーラーの実行時に手動データベース・セットアップを選択した場合、またはインストール時に自動データベース・セットアップが失敗した場合にのみ必要となります。

Distributed Marketing システム・テーブルをシステム・テーブル・データベースに作成し、それらに必要なデータを設定してください。

1. `<Distributed_Marketing_home>/tools/bin/setenv.bat` ファイルまたは `setenv.sh` ファイルをテキスト・エディターで開きます。
2. `JAVA_HOME` パラメーターと `DBDRIVER_CLASSPATH` パラメーターがまだ設定されていない場合は、それらを設定します。
3. `<Distributed_Marketing_home>/tools/bin` ディレクトリーに置かれている、`udmdbsetup.bat` ファイルまたは `udmdbsetup.sh` ファイルを実行します。実行するインストールのタイプ (新規インストール、再インストール、またはアップグレード) に合った指示に従ってください。

新規インストールまたは再インストールの場合:

フルインストール・パラメーターを使用して `udmdbsetup` を実行します。ロケールおよびインストール・タイプに合った正しいパラメーター値を使用してください。以下の例では、`en_US` ロケールの Windows における新規インストールで、Distributed Marketing システム・テーブルを作成してデータを設定します。

```
udmbdbsetup.bat -Len_US -tfull -v
```

アップグレード・インストールの場合:

アップグレード・パラメーターを使用して `udmbdbsetup` を実行します。ロケール、インストール・タイプ、およびアップグレード元のバージョンに合った正しいパラメーター値を使用してください。以下の例では、`fr_FR` ロケールの UNIX におけるバージョン 8.2 からのアップグレードで、Distributed Marketing システム・テーブルを作成してデータを設定します。

```
udmbdbsetup.sh -b8.2 -Lfr_FR -tupgrade -v
```

ステップ: 手動での Distributed Marketing の登録 (必要な場合)

インストール・プロセス中に Distributed Marketing インストーラーが Marketing Platform システム・テーブル・データベースと接続できない場合は、この障害について知らせるエラー・メッセージが表示されます。インストール・プロセスは続行されますが、このケースでは、Distributed Marketing 情報を Marketing Platform システム・テーブルに手動でインポートする必要があります。

`configTool` ユーティリティーが、Marketing Platform インストール済み環境下の `tools/bin` ディレクトリに置かれています。`configTool` ユーティリティーの使用手順について詳しくは、53 ページの『`configTool` ユーティリティー』を参照してください。

以下のコマンド例を指針として、`configTool` ユーティリティーを実行します。これにより、構成プロパティとメニュー項目がインポートされます。存在するファイルの数と同じ回数、ユーティリティーを実行する点に注意してください。

```
configTool.bat -v -i -p "Affinium|suite|uiNavigation|mainMenu|Analytics" -f  
"%NAVIGATION_DIR%\DistributedMarketing_navigation_analytics.xml"
```

```
configTool.bat -v -i -p "Affinium|suite|uiNavigation|alerts" -f  
"%NAVIGATION_DIR%\DistributedMarketing_alert.xml"
```

```
configTool -r Collaborate -f  
"full_path_to_DistributedMarketing_installation_directory%conf%  
DistributedMarketing_configuration.xml"
```

```
configTool -v -i -p "Affinium|suite|uiNavigation|mainMenu" -f  
"full_path_to_DistributedMarketing_installation_directory%conf%  
DistributedMarketing_navigation.xml"
```

```
configTool -v -i -p "Affinium|suite|uiNavigation|settingsMenu" -f  
"full_path_to_DistributedMarketing_installation_directory%conf%  
DistributedMarketing_setings.xml"
```

アップグレード後の手順

アップグレードの完了後、以下の手順を実行する必要があります。

1. まだ行っていない場合、Web サーバーに `collaborate.war` を配置します。
2. 「Platform」 > 「構成」で、プロパティ「**Distributed Marketing**」 > 「UDM 構成設定」 > 「テンプレート」 > `defaultListTableDSName` を編集して適切なデータ・ソース名を設定してください。
3. 複数のデータ・ソースを使用する場合は、`listmanager_tables.xml` を編集して、さらにデータ・ソースを追加します。

以下に例を示します。

```
<Datasource Name="ACC_DEMO" Type="SQLSERVER" DecimalSeparator="."/>  
<Datasource Name="ACC_DEMO4" Type="SQLSERVER" DecimalSeparator="."/>
```

4. Web サーバーを再始動します。
5. 「設定」 > 「**Distributed Marketing 設定**」 > 「テンプレート構成」 > 「テンプレート」と開きます。
6. 各々の企業キャンペーン・テンプレートの「キャンペーン」タブを開き、「**IBM Unica Campaign Service URL**」を `http://server:port/Campaign/services/CampaignServices30Service` に更新します。
7. 「設定」 > 「構成」 > 「**Campaign**」 > 「**Collaborate**」 と開きます。
8. 「**CollaborateIntegrationServicesURL**」で、「設定の編集」をクリックします。
9. `http://server:port/collaborate/services/CollaborateIntegrationServices/1.0` を `http://server:port/collaborate/services/CollaborateIntegrationServices1.0` に変更します。
10. Web サーバーを再始動します。

付録. configTool ユーティリティー

「構成」ページのプロパティーと値は、Marketing Platform システム・テーブルに格納されます。configTool ユーティリティーは、構成設定を Marketing Platform システム・テーブルにインポート、またはそこからエクスポートします。

configTool を使用する状況

以下の理由で configTool を使用することがあります。

- Campaign で提供されるパーティションおよびデータ・ソース・テンプレートをインポートする。続いて、「構成」ページを使用してこれらを変更したり複製したりできます。
- 製品インストーラーが自動的にプロパティーをデータベースに追加できない場合に、IBM Unica Marketing 製品を登録 (構成プロパティーをインポート) する。
- バックアップ用、または IBM Unica Marketing の他のインストール済み環境へのインポート用に、XML バージョンの構成設定をエクスポートする。
- 「**カテゴリーの削除**」リンクがないカテゴリーを削除する。これを行うには、configTool を使用して構成をエクスポートしてから、カテゴリーを作成する XML を手動で削除し、configTool を使用して編集済み XML をインポートします。

重要: このユーティリティーは、Marketing Platform システム・テーブル・データベースの `usm_configuration` テーブルと `usm_configuration_values` テーブルを変更します。これらのテーブルには、構成プロパティーとそれらの値が入っています。最良の結果を得るため、これらのテーブルのバックアップ・コピーを作成するか、または configTool を使用して既存の構成をエクスポートし、その結果得られたファイルをバックアップします。こうして、configTool を使用してインポートする際に誤りがあった場合でも構成を復元することができます。

有効な製品名

configTool ユーティリティーでは、このセクションで後述する、製品の登録と登録抹消を行うコマンドで、製品名をパラメーターとして使用します。IBM Unica Marketing の 8.0.0 リリースでは、多くの製品名が変更されました。しかし、configTool で認識される名前は変更されませんでした。configTool で使用するための有効な製品名を、現在の製品名と共に以下にリストします。

製品名	configTool で使用する名前
Marketing Platform	Manager
Campaign	Campaign
Distributed Marketing	Collaborate
eMessage	emessage
Interact	interact
Optimize	Optimize
Marketing Operations	Plan

製品名	configTool で使用する名前
CustomerInsight	Insight
NetInsight	NetInsight
PredictiveInsight	Model
Leads	Leads

構文

```
configTool -d -p "elementPath" [-o]
```

```
configTool -i -p "parent ElementPath" -f importFile [-o]
```

```
configTool -x -p "elementPath" -f exportFile
```

```
configTool -r productName -f registrationFile [-o]
```

```
configTool -u productName
```

コマンド

-d -p "elementPath"

構成プロパティ階層内のパスを指定して、構成プロパティとそれらの設定を削除します。

要素パスでは、カテゴリとプロパティの内部名を使用する必要があります。これらを取得するには、「構成」ページに移動し、対象のカテゴリまたはプロパティを選択し、右ペインで括弧内に表示されているパスを確認します。 | 文字を使用して構成プロパティ階層内のパスを区切り、二重引用符を使用してパスを囲んでください。

次のことに注意してください。

- このコマンドを使用して削除できるのは、アプリケーション全体ではなく、アプリケーション内のカテゴリとプロパティのみです。アプリケーション全体の登録を抹消するには、-u コマンドを使用してください。
- 「構成」ページで「**カテゴリの削除**」リンクがないカテゴリを削除するには、-o オプションを使用してください。

-i -p "parentElementPath" -f importFile

指定された XML ファイルから、構成プロパティとそれらの設定をインポートします。

インポートするには、親要素へのパスを指定します。この親要素の下に、カテゴリがインポートされます。configTool ユーティリティーは、パスに指定されたカテゴリの下にプロパティをインポートします。

最上位より下のいずれのレベルでもカテゴリを追加できますが、最上位カテゴリと同じレベルではカテゴリを追加できません。

親要素パスでは、カテゴリとプロパティの内部名を使用する必要があります。これらを取得するには、「構成」ページに移動し、対象のカテゴリまたはプロパティを選択し、右ペインで括弧内に表示されているパスを確認します。| 文字を使用して構成プロパティ階層内のパスを区切り、二重引用符を使用してパスを囲んでください。

tools/bin ディレクトリーからのインポート・ファイルの相対位置を指定できます。あるいは、ディレクトリーの絶対パスを指定できます。相対パスを指定するか、またはパスを指定しない場合、configTool はまず、tools/bin ディレクトリーからの相対位置にあるファイルを探します。

デフォルトではこのコマンドで既存のカテゴリは上書きされませんが、-o オプションを使用して強制的に上書きすることができます。

-x -p "elementPath" -f exportFile

指定された名前の XML ファイルに、構成プロパティとそれらの設定をエクスポートします。

すべての構成プロパティをエクスポートできます。あるいは、構成プロパティ階層内のパスを指定することで、特定のカテゴリに限定してエクスポートすることもできます。

要素パスでは、カテゴリとプロパティの内部名を使用する必要があります。これらを取得するには、「構成」ページに移動し、対象のカテゴリまたはプロパティを選択し、右ペインで括弧内に表示されているパスを確認します。| 文字を使用して構成プロパティ階層内のパスを区切り、二重引用符を使用してパスを囲んでください。

現行ディレクトリーからのエクスポート・ファイルの相対位置を指定できます。あるいは、ディレクトリーの絶対パスを指定できます。ファイル指定に区切り文字 (Unix では / Windows では \ または ¥) が含まれない場合、configTool は Marketing Platform インストール済み環境下の tools/bin ディレクトリーにファイルを書き込みます。xml 拡張子を付けなかった場合、configTool がそれを付加します。

-r productName -f registrationFile

アプリケーションを登録します。登録ファイルの場所は、tools/bin ディレクトリーからの相対位置か、絶対パスにすることができます。デフォルトではこのコマンドで既存の構成は上書きされませんが、-o オプションを使用して強制的に上書きすることができます。productName パラメーターは、上記にリストされたものの 1 つでなければなりません。

次のことに注意してください。

- -r オプションを使用する場合、登録ファイルには XML 内の 1 番目のタグとして <application> が含まれていなければなりません。

Marketing Platform データベースへの構成プロパティの挿入に使用できる他のファイルが、製品と共に提供されることがあります。これらのファイルについて

は、`-i` オプションを使用してください。 `<application>` タグが 1 番目のタグとして含まれるファイルのみ、`-r` オプションと共に使用できます。

- Marketing Platform の登録ファイルは `Manager_config.xml` という名前で、1 番目のタグは `<Suite>` です。新規インストールでこのファイルを登録するには、「IBM Unica Marketing Platform インストール・ガイド」に説明されているように `populateDb` ユーティリティーを使用するか、または Marketing Platform インストーラーを再実行します。
- 初回インストールの後、Marketing Platform 以外の製品を再登録するには、`configTool` を `-r` オプションおよび `-o` と共に使用して、既存のプロパティを上書きします。

-u *productName*

productName によって指定されたアプリケーションの登録を抹消します。製品カテゴリへのパスを含める必要はありません。製品名で十分です。 *productName* パラメーターは、上記にリストされたものの 1 つでなければなりません。これにより、製品のすべてのプロパティと構成設定が削除されます。

オプション

-o

`-i` または `-r` と共に使用すると、既存のカテゴリまたは製品の登録 (ノード) が上書きされます。

`-d` と共に使用すると、「構成」ページで「**カテゴリの削除**」リンクがないカテゴリ (ノード) を削除できます。

例

- Marketing Platform インストール済み環境下の `conf` ディレクトリーに置かれた `Product_config.xml` という名前のファイルから、構成設定をインポートします。

```
configTool -i -p "Affinium" -f Product_config.xml
```

- 提供されている Campaign データ・ソース・テンプレートの 1 つを、デフォルトの Campaign パーティションである `partition1` にインポートします。この例では、Oracle データ・ソース・テンプレートである `OracleTemplate.xml` が、Marketing Platform インストール済み環境下の `tools/bin` ディレクトリーに置かれているとします。

```
configTool -i -p "Affinium|Campaign|partitions|partition1|dataSources" -f OracleTemplate.xml
```

- すべての構成設定を、`D:¥backups` ディレクトリーに置かれた `myConfig.xml` という名前のファイルにエクスポートします。

```
configTool -x -f D:¥backups¥myConfig.xml
```

- 既存の Campaign パーティション (データ・ソース・エントリーを伴う) をエクスポートし、`partitionTemplate.xml` という名前のファイルに保存し、Marketing Platform インストール済み環境下のデフォルトの `tools/bin` ディレクトリーに保管します。

```
configTool -x -p "Affinium|Campaign|partitions|partition1" -f  
partitionTemplate.xml
```

- Marketing Platform インストール済み環境下のデフォルトの tools/bin ディレクトリーに置かれた、app_config.xml という名前のファイルを使用して、productName という名前のアプリケーションを手動で登録し、このアプリケーションの既存の登録を強制的に上書きします。

```
configTool -r product Name -f app_config.xml -o
```

- productName という名前のアプリケーションの登録を抹消します。

```
configTool -u productName
```

IBM Unica 技術サポートへの連絡

ドキュメンテーションを参照しても解決できない問題があるなら、指定されているサポート窓口を通じて IBM Unica 技術サポートに電話することができます。このセッションの情報を使用するなら、首尾よく効率的に問題を解決することができます。

サポート窓口が指定されていない場合は、IBM Unica 管理者にお問い合わせください。

収集する情報

IBM Unica 技術サポートに連絡する前に、以下の情報を収集しておいてください。

- 問題の性質の要旨。
- 問題発生時に表示されるエラー・メッセージの詳細な記録。
- 問題を再現するための詳しい手順。
- 関連するログ・ファイル、セッション・ファイル、構成ファイル、およびデータ・ファイル。
- 「システム情報」の説明に従って入手した製品およびシステム環境についての情報。

システム情報

IBM Unica 技術サポートに電話すると、実際の環境に関する情報について尋ねられることがあります。

問題が発生してもログインは可能である場合、情報の大部分は「バージョン情報」ページで入手できます。そのページには、インストールされている IBM Unica のアプリケーションに関する情報が表示されます。

「バージョン情報」ページは、「ヘルプ」>「バージョン情報」を選択することにより表示できます。「バージョン情報」ページを表示できない場合、どの IBM Unica アプリケーションについても、そのインストール・ディレクトリの下にある `version.txt` ファイルを表示することにより、各アプリケーションのバージョン番号を入手できます。

IBM Unica 技術サポートの連絡先情報

IBM Unica 技術サポートとの連絡を取る方法については、IBM Unica 製品技術サポートの Web サイト (<http://www.unica.com/about/product-technical-support.htm>) を参照してください。

特記事項

本書は米国 IBM が提供する製品およびサービスについて作成したものです。

本書に記載の製品、サービス、または機能が日本においては提供されていない場合があります。日本で利用可能な製品、サービス、および機能については、日本 IBM の営業担当員にお尋ねください。本書で IBM 製品、プログラム、またはサービスに言及していても、その IBM 製品、プログラム、またはサービスのみが使用可能であることを意味するものではありません。これらに代えて、IBM の知的所有権を侵害することのない、機能的に同等の製品、プログラム、またはサービスを使用することができます。ただし、IBM 以外の製品とプログラムの操作またはサービスの評価および検証は、お客様の責任で行っていただきます。

IBM は、本書に記載されている内容に関して特許権 (特許出願中のものを含む) を保有している場合があります。本書の提供は、お客様にこれらの特許権について実施権を許諾することを意味するものではありません。実施権についてのお問い合わせは、書面にて下記宛先にお送りください。

〒103-8510
東京都中央区日本橋箱崎町19番21号
日本アイ・ビー・エム株式会社
法務・知的財産
知的財産権ライセンス渉外

以下の保証は、国または地域の法律に沿わない場合は、適用されません。IBM およびその直接または間接の子会社は、本書を特定物として現存するままの状態を提供し、商品性の保証、特定目的適合性の保証および法律上の瑕疵担保責任を含むすべての明示もしくは黙示の保証責任を負わないものとします。国または地域によっては、法律の強行規定により、保証責任の制限が禁じられる場合、強行規定の制限を受けるものとします。

この情報には、技術的に不適切な記述や誤植を含む場合があります。本書は定期的に見直され、必要な変更は本書の次版に組み込まれます。IBM は予告なしに、随時、この文書に記載されている製品またはプログラムに対して、改良または変更を行うことがあります。

本書において IBM 以外の Web サイトに言及している場合がありますが、便宜のため記載しただけであり、決してそれらの Web サイトを推奨するものではありません。それらの Web サイトにある資料は、この IBM 製品の資料の一部ではありません。それらの Web サイトは、お客様の責任でご使用ください。

IBM は、お客様が提供するいかなる情報も、お客様に対してなんら義務も負うことのない、自ら適切と信ずる方法で、使用もしくは配布することができるものとします。

本プログラムのライセンス保持者で、(i) 独自に作成したプログラムとその他のプログラム (本プログラムを含む) との間での情報交換、および (ii) 交換された情報の相互利用を可能にすることを目的として、本プログラムに関する情報を必要とする方は、下記に連絡してください。

IBM Corporation
170 Tracer Lane
Waltham, MA 02451
U.S.A.

本プログラムに関する上記の情報は、適切な使用条件の下で使用することができますが、有償の場合もあります。

本書で説明されているライセンス・プログラムまたはその他のライセンス資料は、IBM 所定のプログラム契約の契約条項、IBM プログラムのご使用条件、またはそれと同等の条項に基づいて、IBM より提供されます。

この文書に含まれるいかなるパフォーマンス・データも、管理環境下で決定されたものです。そのため、他の操作環境で得られた結果は、異なる可能性があります。一部の測定が、開発レベルのシステムで行われた可能性があります。その測定値が、一般に利用可能なシステムのものと同じである保証はありません。さらに、一部の測定値が、推定値である可能性があります。実際の結果は、異なる可能性があります。お客様は、お客様の特定の環境に適したデータを確かめる必要があります。

IBM 以外の製品に関する情報は、その製品の供給者、出版物、もしくはその他の公に利用可能なソースから入手したものです。IBM は、それらの製品のテストは行っておりません。したがって、他社製品に関する実行性、互換性、またはその他の要求については確認できません。IBM 以外の製品の性能に関する質問は、それらの製品の供給者をお願いします。

IBM の将来の方向または意向に関する記述については、予告なしに変更または撤回される場合があります、単に目標を示しているものです。

表示されている IBM の価格は IBM が小売り価格として提示しているもので、現行価格であり、通知なしに変更されるものです。卸価格は、異なる場合があります。

本書には、日常の業務処理で用いられるデータや報告書の例が含まれています。より具体性を与えるために、それらの例には、個人、企業、ブランド、あるいは製品などの名前が含まれている場合があります。これらの名称はすべて架空のものであり、名称や住所が類似する企業が実在しているとしても、それは偶然にすぎません。

著作権使用許諾:

本書には、様々なオペレーティング・プラットフォームでのプログラミング手法を例示するサンプル・アプリケーション・プログラムがソース言語で掲載されています。お客様は、サンプル・プログラムが書かれているオペレーティング・プラットフォームのアプリケーション・プログラミング・インターフェースに準拠したアプリケーション・プログラムの開発、使用、販売、配布を目的として、いかなる形式においても、IBM に対価を支払うことなくこれを複製し、改変し、配布することが

できます。このサンプル・プログラムは、あらゆる条件下における完全なテストを経ていません。従って IBM は、これらのサンプル・プログラムについて信頼性、利便性もしくは機能性があることをほのめかしたり、保証することはできません。これらのサンプル・プログラムは特定物として現存するままの状態を提供されるものであり、いかなる保証も提供されません。IBM は、お客様の当該サンプル・プログラムの使用から生ずるいかなる損害に対しても一切の責任を負いません。

この情報をソフトコピーでご覧になっている場合は、写真やカラーの図表は表示されない場合があります。

商標

IBM、IBM ロゴ、および ibm.com は、世界の多くの国で登録された International Business Machines Corp. の商標です。他の製品名およびサービス名等は、それぞれ IBM または各社の商標である場合があります。現時点での IBM の商標リストについては、『www.ibm.com/legal/copytrade.shtml』をご覧ください。



Printed in Japan